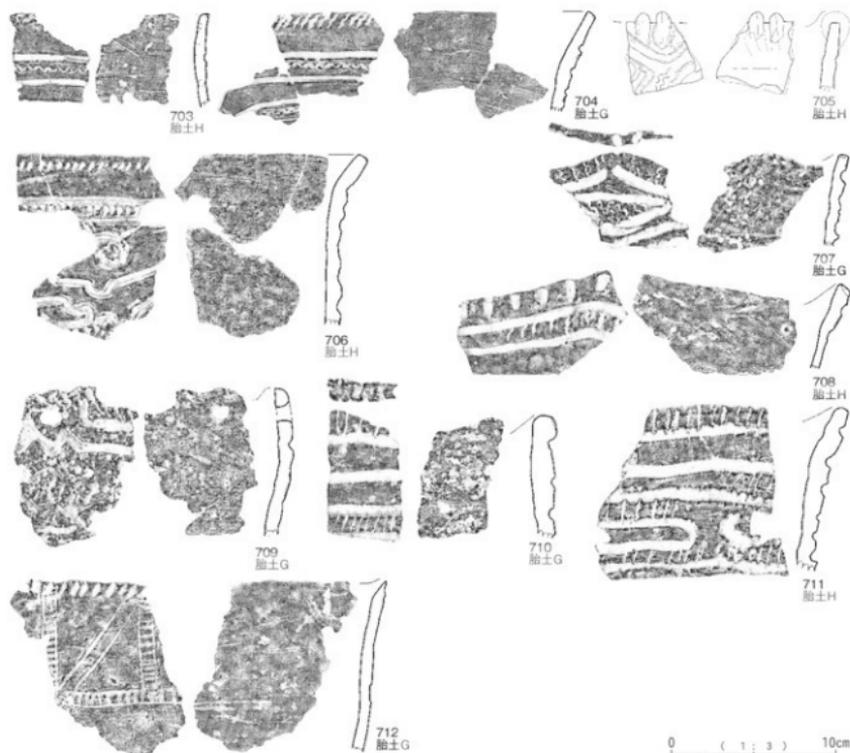




第99图 9A類土器実測図(2)



第100図 9A類土器実測図(3)

け、その上面はヘラで横に鋭い刻みを施し、その下に半載竹管状工具で縦3段横2列に刺突文を施文する。施文帯を周回する沈線文は4本で、3~4本目の沈線文間にも刻みが施される。胎土には長石粒を中心に石英粒のほか、小豆色の粒子を含む。特に内面の風化が著しく進行している。716は復元口径18.2cmで、口唇部を失り気味に撫でて仕上げた、口径と胴部最大径がほぼ一致する鉢形土器である。口縁部は波状を呈し、口唇部には斜めに刻みが施されている。4~5本の沈線文間には沈線施文後に殻頂部を用いて刺突文が施される。沈線内には多量のススが附着している。717は716と器形及び文様が類似している。718は明褐色の硬質土器で、沈線文間の二枚貝刺突文は沈線文に先行する。719は半載竹管状工具を用いて横位に刺突を施している。721は刺突文の施文具に二枚貝を用い、沈線の施文具に筋状痕の明瞭な半載竹管状工具を用いる。722の口唇部刺突文は貝殻を用いて右から左に移動しながら施文する。723は頸部で外反し、口縁部及び口縁直下、屈曲部の並行沈線文間に連続的な刺

突文が施文される。3か所の刺突文は全て左から右方向に施文されるが、それぞれの刺突形状は異なる。724はやや内弯する鉢形土器で、大波文風の沈線文間に二枚貝を連続して刺突する。725は明かり窓付きの台形状突起部を作出し、突起部の頂部中央と両端部はヘラで、前面は二枚貝で刻みが施される。また、楕円形に開いた沈線文間には二枚貝による刺突文が施されている。胎土は大粒の凝灰岩粒を含むものであるが、極めて硬質な焼成をなす。

9B類

726.727.728.729は半載竹管状工具による並走沈線文間の狭い領域に二枚貝の腹縁部を用いて刺突を施すもので、726.727は胎土等の共通点が多い。730は口唇部が丸い平縁口縁で、沈線文間に貝殻腹縁部を横方向に2~4段重ねて施文する。本例では沈線文が先行して引かれ、刺突文が後続する。内外面とも器面は特徴的な肌色を呈し、硬質な仕上がりをなす。731は口縁部が内弯する袋状の器形とみられる。口唇部は外側に傾き、刺突具は二枚貝



第101图 9A類土器実測図(4)

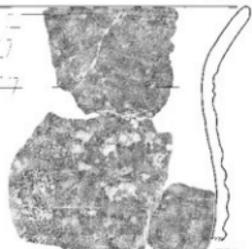
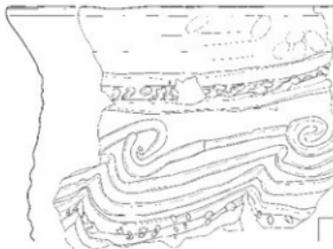
第38表 9類土器観察表(1)

調査No	図No	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	フリット	胎土	備考	
96		1774	25.301	77.989	144.328	Ⅱ	C.8			
		1775	25.434	77.906	144.324	Ⅱ	C.8			
		2080	26.013	74.015	144.559	Ⅱ	C.8			
		5872	25.498	77.809	144.280	Ⅱ	C.8			
		5873	25.468	78.014	144.271	Ⅱ	C.8			
		5906	24.251	75.027	144.423	Ⅱ	C.8			
		9025	16.112	83.424	143.030	Ⅱ	B.9			
		11824	23.319	78.378	143.811	Ⅱ	B.9			
		-	0.000	0.000	1.000	Ⅱ	B.9			
		7630	23.528	19.390	144.330	Ⅱ	C.2			
667		7648	23.521	19.800	144.337	Ⅱ	C.2			
		9608	23.617	19.712	144.279	Ⅳ	C.2			
		9607	23.559	19.319	144.340	Ⅱ	C.2			
		698	13.667	25.063	84.441	143.753	Ⅱ	C.9	H	
689		5305	25.697	82.899	144.620	Ⅱ	C.9	E		
		5310	26.625	82.950	144.671	Ⅱ	C.9			
690		16910	22.454	86.045	143.507	Ⅱ	C.9	G		
		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9			
691		-	0.000	0.000	0.000	調査	A.9-4.5	G		
692		10899	23.268	81.505	143.817	Ⅱ	C.9	H		
		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9			
693		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9	E		
694		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.10	F		
695		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9	G		
		8406	21.649	78.147	143.804	Ⅱ	C.8			
696		12509	22.567	59.668	144.630	Ⅱ	C.6			
		13807	21.800	79.381	143.696	Ⅱ	C.8			
		16027	21.425	77.643	143.610	Ⅱ	C.8			
		697	15.907	24.622	85.881	143.543	Ⅱ	C.9	H	
698		13062	20.908	13.457	144.221	Ⅱ	C.2	F		
		45	25.796	78.913	144.390	Ⅱ	C.8			
699		1755	25.646	79.134	144.299	Ⅱ	C.8			
		8770	24.874	81.390	143.995	Ⅱ	C.9			
		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9			
700		14620	22.993	21.437	144.269	Ⅳ	C.3			
		-	0.000	0.000	0.000	Ⅳ	C.3			
		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.3			
		1783	26.157	78.020	144.337	Ⅱ	C.8			
701		9313	21.296	82.558	143.962	Ⅱ	C.9			
		11885	22.897	79.766	143.765	Ⅱ	C.8			
		16877	24.566	87.885	143.471	Ⅱ	C.9	E		
702		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9			
		5774	27.009	80.044	144.264	Ⅱ	C.9			
		5776	27.094	79.855	144.297	Ⅱ	C.8	G		
703		19914	27.251	79.943	144.340	Ⅱ	C.8			
		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9	H		
704		4972	18.299	35.450	144.730	Ⅱ	B.6	G		
		12099	24.300	91.296	143.955	Ⅱ	C.10			
100		705	70.81	26.368	78.016	144.215	Ⅱ	C.8	H	
		15473	19.699	87.527	142.754	Ⅱ	B.9	H		
		-	0.000	0.000	1.000	Ⅱ	C.9			
		707	14.059	24.439	85.659	142.645	Ⅱ	C.9	G	
		708	13.993	25.038	23.646	144.744	Ⅱ	C.3	H	
		709	16.39	23.056	75.738	144.281	Ⅱ	C.8	G	
		710	18.973	14.760	85.856	142.680	Ⅱ	B.9	G	
		711	38.349	7.721	41.527	143.994	Ⅱ	A.5	H	
		711	38.365	9.840	41.877	144.246	Ⅱ	A.5	H	
		712	13.371	24.234	63.073	144.679	Ⅱ	C.7	G	
713		10821	25.369	83.046	143.868	Ⅱ	C.9			
		19144	24.870	87.663	143.402	Ⅱ	C.9	H		
		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9			
714		-	0.000	0.000	0.000	I	B.2	H		
715		-	0.000	0.000	0.000	調査	A.9-4.5	G		
		13403	27.454	92.318	143.938	Ⅱ	C.10			
716		-	0.000	0.000	1.000	Ⅱ	C.10	H		
		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9			
717		-	0.000	0.000	0.000	調査	C.9	F		
718		14191	20.200	80.896	143.436	Ⅱ	C.9	G		
719		6585	21.770	86.123	143.234	Ⅳ	C.9	H		
720		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9	D		
721		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9	G		
722		2111	26.073	71.228	144.798	Ⅱ	C.8	G		
		11276	23.692	73.918	144.412	Ⅱ	C.6			
723		17834	22.906	86.522	143.372	Ⅱ	C.9	E		
		2577	25.030	19.008	144.689	Ⅱ	C.2			
724		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.2	F		
		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.3			
725		17888	23.997	78.784	143.585	Ⅱ	C.8			
		-	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9	G		





第103图 9B類土器実測図(1)



0 (1 : 3) 10cm

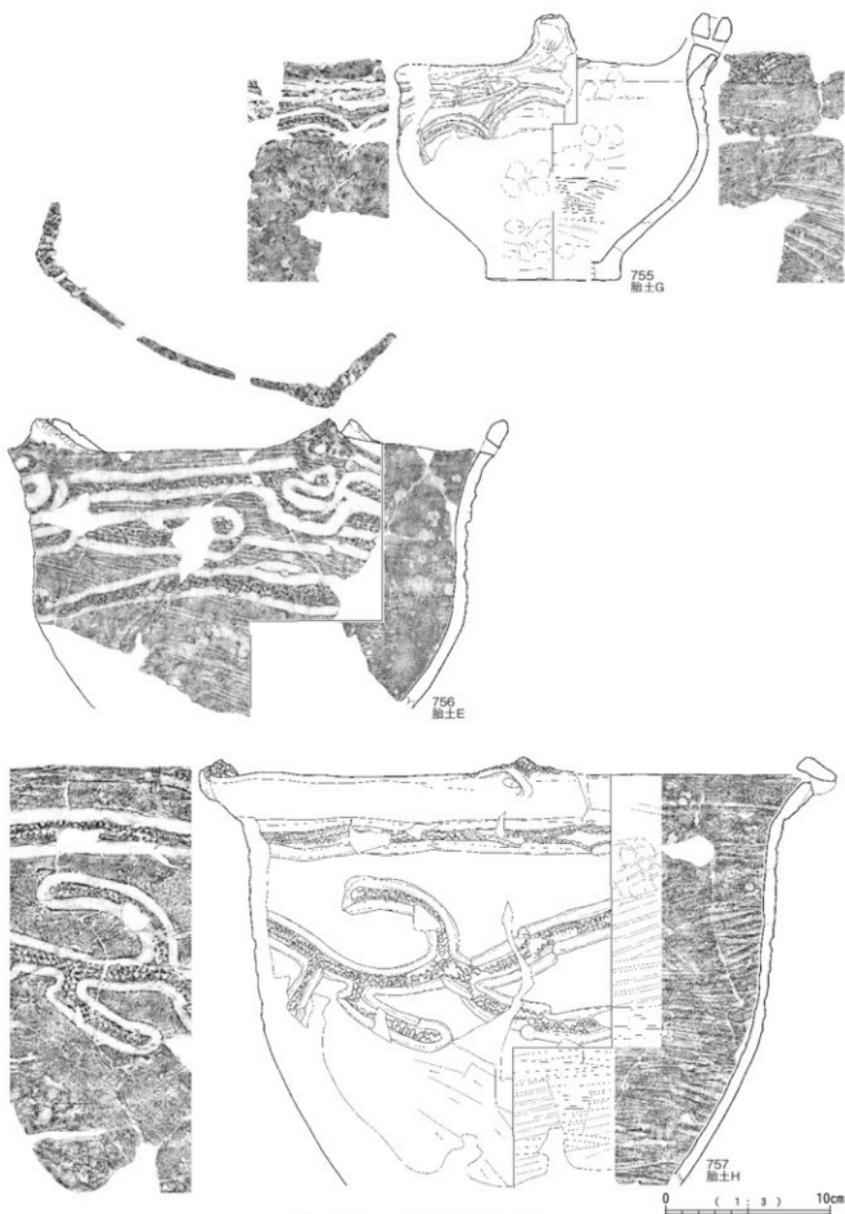
第104図 9B類土器実測図(2)

の腹縁部で沈線文には幅広の棒状工具を用いる。口縁部及び沈線文間の刺突文は沈線文に先行し、二枚貝の腹縁部を横位に刺突したもので、上下に2~4回重ねて施文している。器壁の薄い作りで、胎土粒子も細かく、内面のナテ仕上げも丁寧な資料である。732は半載竹管状工具による並走沈線文間の狭い領域に二枚貝の腹縁部を刺突する資料である。胎土には細粒の石英粒が多量に含まれる。733の細沈線による並行沈線文は半載竹管状工具を押し引いたもので、その上位を二枚貝で連続的な刻みが施されている。734は小型鉢形土器で、口唇部は尖り気味に納められる。二枚貝を用いて帯状に刺突した後、細沈線で囲む。735は口唇端部に粘土紐を貼付け、外面は指押さえによる爪痕が規則的に残る。半載竹管状工具による並走する狭い沈線文間には、二枚貝を横位に用いた刺突文が施されている。器面は丁寧なナテにより仕上げられており、胎土には長石粒が目立つが小豆色の粒子も含まれる。736は沈線文が先行し、これに後続して二枚貝の腹縁部を刺突する。沈線内にはススが附着する。737は二枚貝の腹縁部を用いた刺突文が施される。738は又叉工具が用いられ、沈線文間及び施文転換点には工具は不明であるが刺突文が施される。739は口縁部が若干内湾する形状で、口唇部も一部に刻みが施され、先行する二枚貝刺突文は後続する並行沈線文で挟み込まれている。740は二枚貝腹縁部、沈線文間及び施文転換点には工具は不明であるが刺突文が施される。739は口縁部が若干内湾する形状で、口唇部も一部に刻みが施され、先行する二枚貝刺突文は後続する並行沈線文で挟み込まれている。741は沈線文間の刻みに沈線が先行しており、内面は条痕仕上げである。742はねじり紐の上面には二枚貝で刻みが施されており、口唇部との間には小さな隙間を残す。先行して連続刺突された巻貝殻頂部を用いた刺突文の上下を挟むように半載竹管状工具による沈線文が並走する。胎土粒子は細かく硬質な焼成で、施文帯は丁寧なナテ、内面は

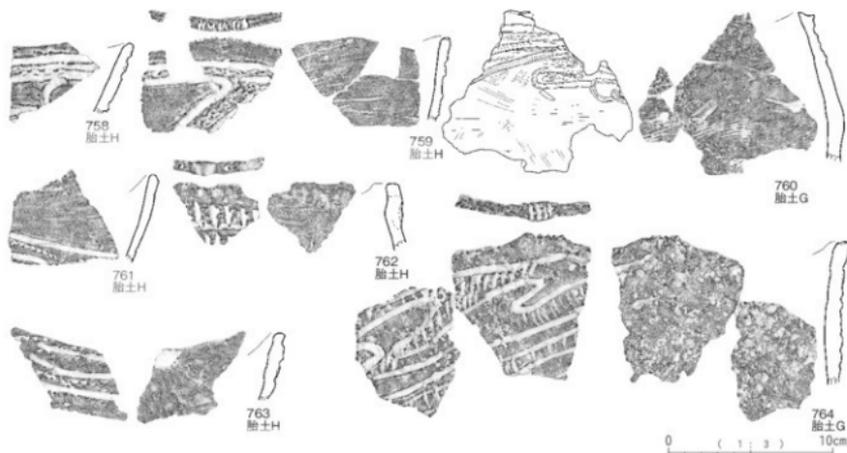
粗い工具ナテで調整が行われている。口縁部を中心にススが附着する。743は二枚貝の腹縁部を用いて刻みが施されている。復元口径は23cm程で、外反口縁の屈曲部沈線文間に沈線文に先行して二枚貝による刻みが施されている。二枚貝の刺突角度が浅いため、施文の条線が明瞭にスタンプされる。744は二枚貝による刺突文を並走する沈線が切っており、刺突文に沈線文が後続する。口唇部にも刻みが施されている。745の器面は光沢を保っている。746.747は二枚貝の腹縁部で刻みが施されている。748は器壁が薄い資料で、全ての沈線文間に二枚貝による刺突文が施された可能性が高く、胎土には小豆色の粒子が多量に含まれる。749の口唇部は丸く、並走する3本の沈線文間にはヘラで鋭い刻みが施されている。1~2本目の沈線文間と2~3本目の沈線文間でヘラ刻みの方向が変わるが、ヘラ刻みが沈線文に先行する。750は施文帯を周回する2~3本目の沈線間にヘラ刻みが施されている。751は緩やかに内湾する器形で、口唇部と外面施文帯の刺突文には同じ二枚貝を使用しており、沈線文に先行して刺突が行われている。胎土には粒子の細かいものが使用され、肌色に発色する。

752は刺突具に二枚貝を使用する。753は沈線文間に単独の放射筋工具を使用した押引状の施文が施されている。胎土には砂粒を多く含み、特に長石粒が目立つ。754は復元口径38cmで、頸部で大きく外反する。口唇部は丸く、頸部屈曲部を周回する2本の幅広沈線文間と、最下位とその上位間の鉤形沈線文間に角度を違えながら二枚貝の刺突が施される。それらの間にも鉤形や渦巻の沈線文が描かれており、胎土には石英粒等の白色鉱物を多量に含んでおり、器壁は薄い。

755は復元口径19cm、高さ13.5cm程の鉢形土器で、2



第105図 9B類土器実測図(3)



第106図 9B類土器実測図(4)

か所ずつの山形と筒形の突起を持つ。口縁部はやや肥厚し、端部で外反する。山形突起の内側は突起頂部を起点に沈線文と二枚貝腹縁刺突文が並行して施文され、沈線文の終点は深く押さえられて強調されている。また山形と筒形の突起間には斜め3~4列のV字状の腹縁刺突文が描かれている。筒形突起は3cm程の煙突状で、その中央部と側面の4か所には先行して明かり窓が穿たれている。突起の内側は縦に3列、口唇部との接合点に斜め2列の腹縁刺突文が施されている。外面には沈線文間に横方向の二枚貝腹縁刺突文を充填し、擬似縦文を演出する。外面は指頭ナデで仕上げられているが、内面はヘラ状工具を強く横位に撫でる調整が繰り返されており器面は光沢を保つ。胎土には大粒の凝灰岩粒や長石粒を大量に含む。756は復元口径31.4cmで、5か所に窓付の波頂部を想定できる。施文は波頂部を起点に行われ、波頂部上面には二枚貝による刻みが施されている。施文帯では沈線文が先行しており、その後右上がり方向の二枚貝腹縁刺突文が充填される。胎土には大粒の凝灰岩粒や細粒の石英粒、輝石が含まれ、糸痕仕上げの器面の上位に施文帯が形成される。757は復元口径38.8cmの口縁部が大きく開く深鉢形土器で、4か所に橋状把手が斜めに取り付けられている。把手上面は二枚貝でランダムに刻みが施され、屈曲部を並走する沈線文間と胴部の沈線文に沿って二枚貝腹縁刺突文が施される。

758は半載竹管状工具による並走する狭い沈線文間に二枚貝腹縁部を刺突する資料である。759も同様で、波頂部上面にも刻みが施される。760は背の低い鉢形土器とみられるが、形状及び傾きは疑問な点が残る。わずかに残る口唇部は指で押さえられ、沈線文間には横方向に二枚貝腹縁刺突文が施される。胎土には大粒の凝灰岩粒

や小豆色の粒子を含む。外面は丁寧なナデ、内面は糸痕の上に丁寧なヘラナデが施されている。761は二枚貝腹縁部の横方向の刺突が施されている。762はヘラで刻みが施されている。763は半載竹管状工具による並走する狭い沈線文間に二枚貝腹縁部を刺突する。764は詳細な口縁形状は不明である。台形状突起の上面は二枚貝による刻みが施され、施文帯の連続刺突文は沈線文に先行しており沈線文に断ち切られている。胎土に多量の石英粒を含み、内面の一部には輪積み痕が残る。

765,766,767,768の刺突具は不明である。769は口唇部が尖り気味で、胴部から口縁部にかけて直行する。胎土は大粒の凝灰岩粒を含むが、内外面共に入念に撫でられて硬質な仕上がりを認める。細い沈線による鉤形文等の屈曲文と並行沈線文の組み合わせで文様が構成され、沈線文間には刺突文が刻まれる。770は台形状突起の上面に棒状工具で刻みが施され、突起部中央を施文の起点とする。文様はこの起点から左右に並行沈線文を上下に2列並走させ、その間にランダムに刺突文を施文する。胎土は砂粒を多く含む器面はザラザラした質感を呈する。771は外反する頸部屈曲部の並行沈線文間に刺突文を施す。772は詳細な傾きは不明であるが、口唇部は尖り気味で細い沈線文間に同一工具で刺突文を施文する。胴部中央から下位にかけて多量のススが附着している。773の口縁部は大きく外反し、波頂部の3か所と屈曲部の沈線文間に竹管状工具ないしは巻貝の殻頂部を用いた連続刺突が施されている。胎土には細粒の石英粒が多量に含まれている。774,775,776は石英の細粒が特徴的な胎土を使用し、器壁が薄く内面のヘラナデ調整は特に入念に行われている。777は沈線文が先行する。776は口縁直下を周回する沈線文の上位に、1単位2.5cm程の二枚貝を用



第107図 9B類土器実測図(5)

いる刺突文を連続的に施文する。胴部の沈線文は凹線文風で、大波文の意匠が確認できる。器壁の薄い良質な仕上がりの資料で器肌は明橙色を呈するが外面は黒色が重なる。778は復元口径32.6cmで4か所の波頂部が想定できる鉢形土器である。口唇部は尖り気味で器壁は薄い。

並行する沈線文は半載竹管状工具を用い、最上位の沈線文間に二枚貝を用いて連続的な刺突が施される。施文帯は丁寧なナア仕上げで器面は光沢を保つが、内面は粗いヘラナア調整により仕上げられている。

9 C 類 (胴部資料)

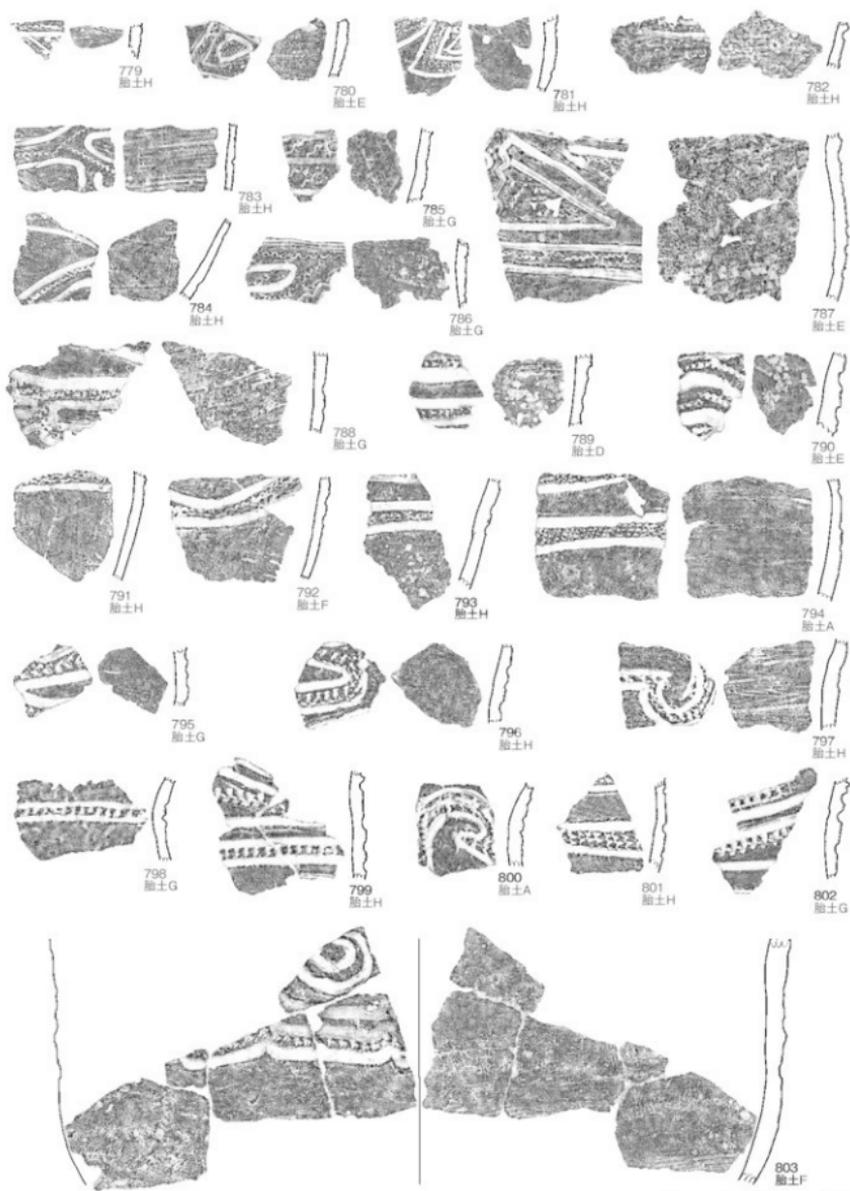
ここでは9類とした擬似縄文土器のうち、口縁部が残存しないため細分できないものの、施文が理解できる胴部資料を抽出して掲載する。

779は沈線文間に横方向の二枚貝腹縁刺突文を施す資料である。780,781の二枚貝腹縁刺突文の施文具は類似する。782は竹管状工具を用いてランダムに施された刺突文を、後続する沈線文が挟み込むように施された資料である。783,784は沈線文及び刺突文の施文手法が類似する。785の施文には規則性が看取される。786,787は同一個体とみられる。なお、787は並走する沈線文とそれにより作り出された空間に、沈線に先行して二枚貝腹縁部を刺突する。788は半載竹管状工具による沈線文に先行して二枚貝腹縁部を横位に使用して刻みを施すもので、沈線文の施文手法からは5 A 類土器との関係が想起できる。789,790は二枚貝による刻みが先行し、いずれも幅広く深く明瞭な沈線が施される。なお、789の胎土には雲母が含まれており特徴的である。791の刺突手法は784に類似する。792の器面は黒灰色を呈し、内面は灰色の長石粒を多量に含む砂質の胎土で器壁は薄く、器面はザラザラ感の強い質感を呈する。幅広い沈線文が先行し沈線文間に二枚貝の腹縁部を横に刺突する。793も横方向の刺突が施される。794の胎土には多量の雲母が含まれる。795,797は二枚貝による刻みが先行し、幅広く深く明瞭な沈線文が施される。798は半載竹管状工具による並走沈線文間に形成された狭い領域に二枚貝腹縁部による刺突が施される。799,800,801等は縦方向に二枚貝による刺突文を施しているが、施文手法には多様性がみられる。なお、沈線文に刺突文が先行する。802は二枚貝による刺突文を並走沈線が切っている。803は胴部上部の資料で不明な部分が多いが、指頭凹線文による円文や擬似縄文を取り囲む大波文が観察できる。器壁は厚く、胎土粒子は細かくやや軟質な仕上がりとになっている。

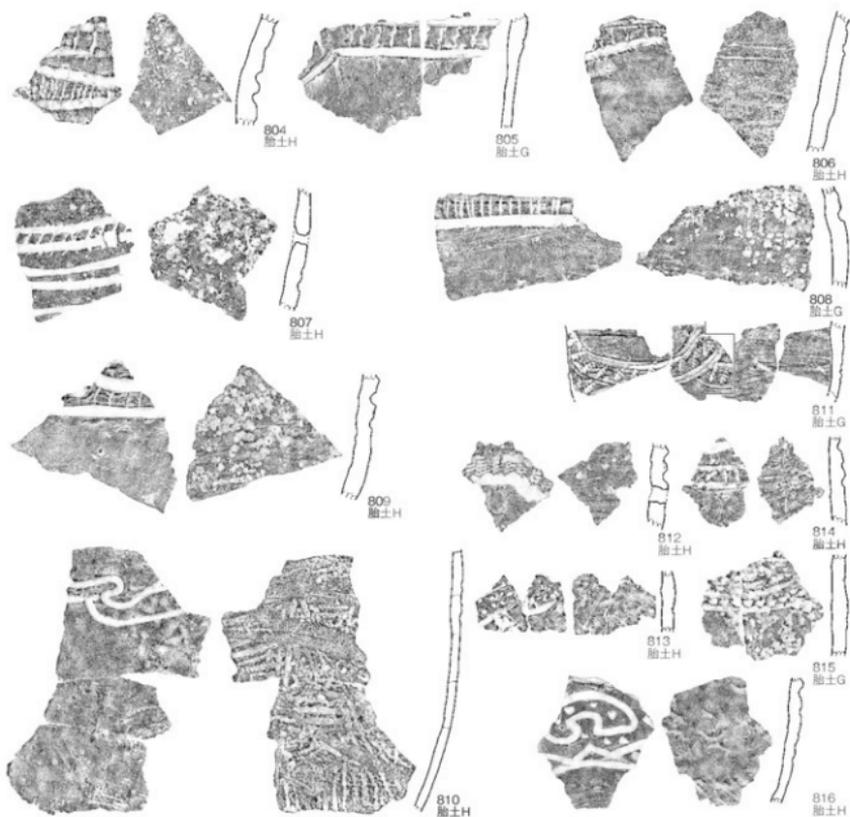
804の施文手法も前資料に類似し、これらは全て刻みが沈線文に先行する。805,806は二枚貝による刻みが沈線文に先行するが、沈線文はいずれも幅広く深く明瞭に施される。807は刻みが先行し部位や傾き等は明らかでないが、円形の穿孔が施されている。808は重量感があり、ヘラ刻みが施されている。809の刻みは沈線文に先行する。810の器壁は薄い。811は沈線文が先行する。812は沈線文間に深い刻みが施される。813は叉状工具が用いられ、工具は不明であるが沈線文間及び施文転換点に刺突が施される。814は縦位、815は横位に刺突が施されている。816の沈線文は深く明瞭で、半載竹管状工具によりまばらな刺突が施される。内面調整は粗く、輪積み痕がそのまま残されている。



第108図 9 C 類土器分布図



第109图 9C类土器实测图(1)



0 (1 : 3) 10cm

第110図 9C類土器実測図(2)

第39表 9類土器観察表(2)

調査No	図No	取上No	口径	口径	口径	口径	胎土	グッド	胎土	備考
726	12517	22801	58.178	144.885	Ⅱ	C-6	H			
727	7229	17866	79.241	143.240	Ⅱ	B-8	E			
728	11740	23068	81.414	143.745	Ⅱ	C-9	F			
	-Ⅱ	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C-9				
	1388	21.625	79.080	143.867	Ⅱ	C-8				
729	8402	21.689	79.909	143.763	Ⅱ	C-8	F			
730	10051	15.810	16.717	144.242	Ⅱ	B-2	H			
	16834	16.686	84.083	142.951	Ⅱ	B-9				
731	-Ⅱ	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B-9	F			
	-Ⅱ	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C-9				
732	11700	20.725	80.351	143.608	Ⅱ	C-9	G			
	-Ⅱ	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B-9				
733	15226	18.472	23.179	144.416	Ⅱ	B-3	G			
	15227	18.469	23.262	144.274	Ⅱ	B-3	G			
734	13627	20.487	82.279	143.481	Ⅱ	C-9	G			
735	18642	18.967	83.817	142.833	Ⅱ	B-9	G			
736	18652	11.887	13.699	143.531	Ⅱ	B-2	F			
737	13623	24.396	84.002	143.711	Ⅱ	C-9	H			
	-Ⅱ	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C-9	H			
738	14918	14.515	13.036	143.809	Ⅱ	B-2	H			
739	12925	12.995	19.026	143.952	Ⅱ	B-2	H			

第40表 9類土器観察表(3)

調査No	図No	取上No	口径	口径	口径	口径	胎土	グッド	胎土	備考
740	13222	22.804	60.315	144.776	Ⅱ	C-7	H			
741	8135	22.847	99.818	144.754	Ⅱ	C-6	G			
742	8994	21.062	80.984	143.657	Ⅱ	C-9	G			
743	11908	22.877	78.723	143.874	Ⅱ	C-8	H			
744	7980	18.309	87.488	142.944	Ⅱ	B-9	H			
745	-Ⅱ	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B-10	A			
746	1139	24.878	102.175	145.082	Ⅱ	C-11	G			
747	11840	24.409	79.060	143.955	Ⅱ	C-8	F			
748	5360	27.176	81.241	144.168	Ⅱ	C-9	G			
	6739	26.941	81.130	144.099	Ⅱ	C-9	G			
749	14334	17.995	26.998	144.385	Ⅱ	B-3	H			
750	17208	13.151	12.558	143.613	Ⅱ	B-2	G			
	-Ⅱ	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B-2	G			
	1314	25.861	66.091	144.884	Ⅱ	C-7	H			
751	1316	25.834	66.461	144.912	Ⅱ	C-7	H			
	1322	25.841	66.023	144.903	Ⅱ	C-7	H			
752	8327	20.982	81.973	143.969	Ⅱ	C-9	F			
753	14475	25.344	89.586	143.597	Ⅱ	C-9	EX			
754	14117	23.665	83.654	143.636	Ⅱ	C-9	EX			
	14434	23.350	91.317	143.596	Ⅱ	C-10	EX			

第41表 9類土器観察表(4)

採出地	25No	取上No	X径線	Y径線	Z径線	器位	フリップ	出土	備考				
755		4692	23.493	61.056	144.900	Ⅱ	C.7						
		4609	22.252	61.570	144.836	Ⅱ	C.7						
		4671	25.696	61.678	144.947	Ⅱ	C.7						
		4675	25.972	61.806	144.925	Ⅱ	C.7						
		8163	22.355	61.723	144.829	Ⅱ	C.7						
		8164	22.335	61.870	144.809	Ⅱ	C.7						
		8165	22.481	61.956	144.739	Ⅱ	C.7						
		8167	22.664	61.947	144.741	Ⅱ	C.7						
		8168	22.934	62.196	144.730	Ⅱ	C.7						
		8175	23.190	62.751	144.834	Ⅱ	C.7						
		13307	22.383	61.834	144.753	Ⅱ	C.7						
		13308	22.359	61.898	144.787	Ⅱ	C.7						
		13309	22.373	61.825	144.806	Ⅱ	C.7						
		13310	22.480	61.901	144.774	Ⅱ	C.7						
		13311	22.408	61.854	144.814	Ⅱ	C.7						
756		—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.7						
		14544	24.032	65.082	143.964	Ⅱ	C.9						
		14545	24.136	64.867	143.570	Ⅱ	C.9						
		15913	23.903	64.965	143.503	Ⅱ	C.9						
		15914	24.025	64.856	143.503	Ⅱ	C.9						
		15917	24.030	64.965	143.535	Ⅱ	C.9						
		—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9						
		—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9						
	757		8050	21.826	66.363	143.178	Ⅳ	C.9					
			13485	18.463	62.666	143.220	Ⅱ	B.9					
			15616	17.952	67.770	143.107	Ⅱ	B.9					
			16714	16.695	62.703	142.806	Ⅱ	B.9					
			16715	16.715	62.829	142.827	Ⅱ	B.9					
			19464	16.024	64.157	142.828	Ⅱ	B.9					
			—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9					
758			—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9					
			584	16.596	65.807	143.409	Ⅱ	B.9					
		759		7965	19.234	66.505	142.995	Ⅳ	B.9				
				—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9				
			760		14511	24.233	67.717	143.624	Ⅱ	C.9			
					761	13641	20.121	61.427	143.426	Ⅱ	C.9		
					762	18975	15.256	64.508	142.572	Ⅱ	B.9		
					763	18918	24.269	78.125	143.822	Ⅱ	C.8		
				32302	31.169	43.554	144.206	Ⅱ	A.5				
	764				—	0.000	0.000	0.000	I	A,B.4.5			
					—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9			
					765	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9		
					766	14426	25.247	90.406	143.648	Ⅱ	C.10		
					767	15506	19.984	60.826	143.288	Ⅱ	B.10		
					—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.10			
				768	18510	13.416	7.707	143.309	Ⅱ	B.1			
				769	14952	15.493	16.763	144.146	Ⅱ	B.2			
		770		13876	23.581	21.437	144.573	Ⅳ	C.3				
771				5203	26.165	66.207	143.961	Ⅱ	C.9				
			5208	26.832	67.982	143.970	Ⅱ	C.9					
			2746	19.775	37.529	144.717	Ⅱ	B.4					
			9683	19.768	37.586	144.700	Ⅱ	B.4					
			12499	19.862	37.538	144.708	Ⅱ	B.4					
			14460	21.783	66.366	143.676	Ⅱ	C.9					
		15777	21.750	69.250	143.451	Ⅱ	C.9						
		—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9						
		15752	21.422	66.484	143.354	Ⅱ	C.9						
	774		—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9					
			—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.10					
			8	11.453	43.480	0.000	I	B.6					
			7990	20.075	66.591	143.048	Ⅳ	C.9					
			8917	20.082	66.616	142.986	Ⅳ	C.9					
			—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9					
		5459	18.677	65.801	143.134	Ⅳ	B.9						
		6522	20.287	66.799	143.101	Ⅳ	C.9						
776			7990	20.075	66.591	143.048	Ⅳ	C.9					
			11000	20.077	66.608	142.986	Ⅳ	C.9					
			—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9					
		777		2600	23.617	18.191	144.526	Ⅱ	C.3				
				835	21.333	65.568	143.545	Ⅱ	C.9				
				4261	19.136	65.897	143.206	Ⅱ	B.9				
				6849	21.478	63.090	143.624	Ⅱ	C.9				
	778			9271	21.496	63.136	143.590	Ⅱ	C.9				
				11680	21.413	63.193	143.564	Ⅱ	C.9				
				—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9				
				—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9				

第42表 9類土器観察表(5)

採出地	25No	取上No	X径線	Y径線	Z径線	器位	フリップ	出土	備考			
779		779	17.916	15.770	16.788	144.007	Ⅱ	B.2				
		780	—	0.000	0.000	0.000	—	—				
		781	15036	11.483	13.673	143.694	I	B.2				
		782	19449	16.625	68.152	142.967	Ⅱ	B.9				
		783	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9				
		784	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9				
		785	4356	23.321	45.479	144.724	Ⅱ	C.5				
		786	17051	18.686	50.183	144.545	Ⅱ	B.6				
		787	11641	23.162	61.864	143.742	Ⅱ	C.9				
		788	11642	23.134	61.979	143.751	Ⅱ	C.9				
		789	—	0.000	0.000	0.000	—	—				
		789	16926	22.775	66.109	143.373	Ⅱ	C.9				
		790	11663	20.946	62.921	143.205	Ⅱ	C.9				
		791	13430	25.814	62.968	143.988	Ⅱ	C.10				
	792		19451	20.176	67.799	143.232	Ⅱ	C.9				
		792	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9				
		793	4167	20.409	65.991	143.430	Ⅱ	C.9				
		794	14537	24.660	65.573	143.581	Ⅱ	C.9				
		795	14960	15.822	17.518	144.156	Ⅱ	B.2				
		796	8119	25.357	59.430	144.856	Ⅱ	C.6				
		797	15812	24.357	69.640	143.524	Ⅱ	C.9				
		798	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.10				
799			12486	24.898	59.028	144.795	Ⅱ	C.6				
			799	17026	24.851	59.120	144.650	Ⅱ	C.6			
			—	0.000	0.000	0.000	Ⅳ	C.6				
			800	6420	16.904	52.575	144.744	Ⅱ	B.6			
			801	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9			
			802	8102	24.684	59.116	144.993	Ⅱ	C.6			
			13485	24.898	59.091	144.827	Ⅱ	C.6				
	803		14937	12.096	16.626	143.805	Ⅱ	B.2				
			16284	11.154	16.667	143.703	Ⅱ	B.2				
			19288	12.511	19.848	143.805	Ⅳ	B.2				
			10037	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.2				
			—	0.000	0.000	0.000	I	B.3				
		804		—	0.000	0.000	0.000	—	—			
				805	117	26.567	62.840	144.282	Ⅱ	C.9		
				13987	23.739	90.207	143.553	Ⅱ	C.10			
			806	14184	21.517	61.944	143.442	Ⅱ	C.9			
			807	—	0.000	0.000	0.000	—	—			
			808	16700	17.036	63.301	142.792	Ⅱ	B.9			
			809	14472	24.290	66.767	143.578	Ⅱ	C.9			
			810	16749	19.373	61.818	143.267	Ⅱ	B.9			
			—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9				
811				6828	23.089	63.579	143.743	Ⅱ	C.9			
			—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9				
			812	6506	19.974	67.411	143.161	Ⅳ	B.9			
			813	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9			
			814	15803	24.123	91.249	143.619	Ⅱ	C.10			
			815	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B.9			
		816	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C.9				
		816	3302	13.325	41.566	144.370	Ⅱ	B.6				

10A類 口縁部肥厚土器

器面全域が施文帯で阿高式土器の系譜を引くものと、肥厚する口縁部に指頭や幅広沈線文で施文する深鉢形土器、ヘラ削り調整し赤色彩色した鉢形土器等を一括してA類とする。また、肥厚する口縁部に指頭やヘラ状工具を押しする一群をB類とし、肥厚する口縁部にヘラ状工具を縦方向に押しする一群をC類とした。

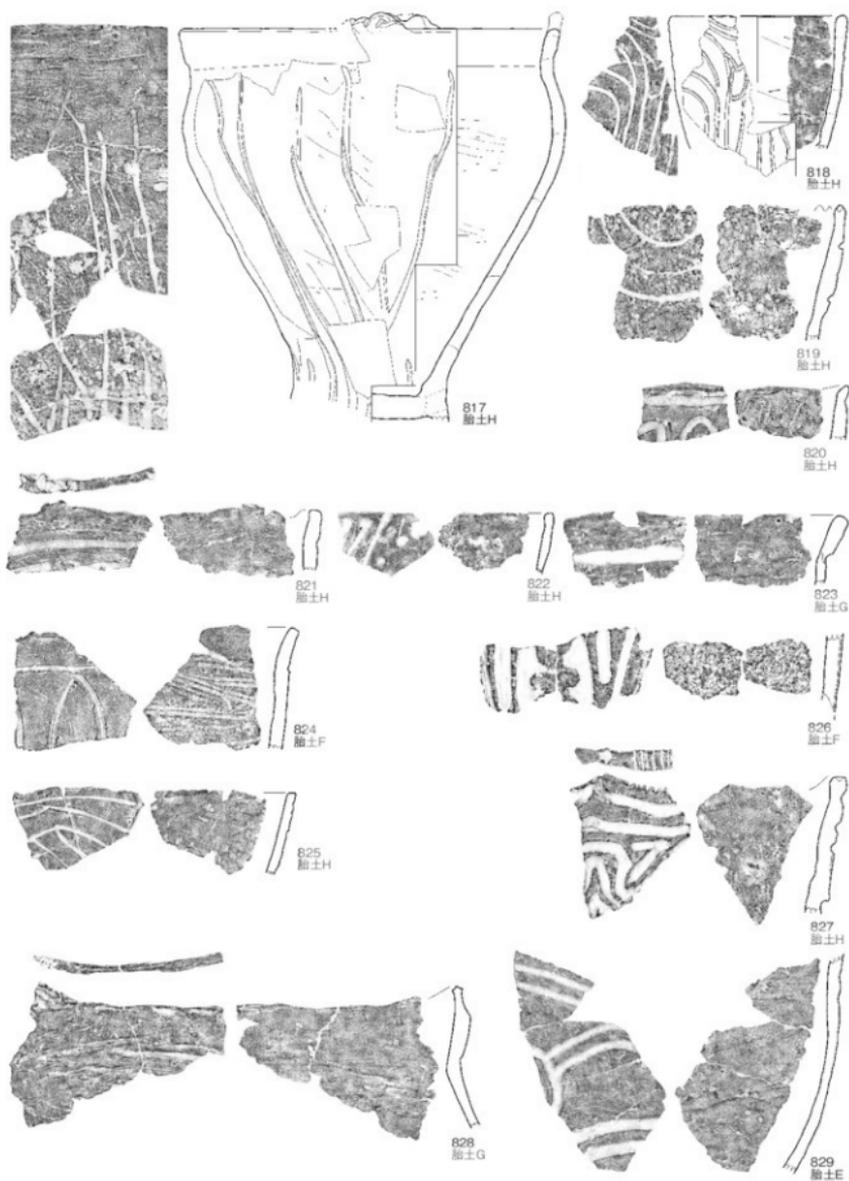
10A類 南福寺式土器

817は胴部上部で一旦内弯し、その上部でわずかに肥厚する口縁部が緩やかに外反する有文の深鉢形土器で、最大径が胴部上部にある。器壁が厚く重量感のある仕上がりで、口縁は平縁口縁をなし、口唇部上面はナデにより平坦に仕上げられている。口唇部には大小2か所の突起を設け、大きな突起は山形に整形し、小さな突起はねじり紐を貼り付けて作出する。ヘラ状工具で頸部から底部まで、伸びやかな細沈線文が施文されている。器面調整は口縁部付近の外側はヘラ削りの上から丁寧なナデで、頸部以下の外側はヘラ削りで調整しており、内側はヘラナデで調整する。内側には調整痕が確認できる。なお、底部の観察からは脚台が脱落した痕跡が看取される。胎土に多くの石英粒を含む。日置市伊集院町上ノ平遺跡出土の15類土器に酷似する資料である。818は復元口径10.6cmのガラス形の小型鉢形土器で、817に類似する縦方向に並列する沈線文が残される。狭い口唇部には平坦面が形成され、内側には輪積み痕やヘラナデ痕が残される。819は口縁部をU字状に結ぶ沈線文が施されており、口唇部には二枚貝による刻みが施される。820の文様構成は824と同一で、口縁部を周囲する沈線文がやや太くなる。821は深鉢形土器の口縁部と判断したものであるが、突起部が脱落する。822の口唇部は平坦面をなす。823は深鉢形土器の口縁部と判断したもので、口縁部は肥厚化がみられる。824の口縁部は肥厚はみられないが、胴部に残る沈線文は先の817と類似する。なお、口縁部下位には施文帯を周囲する沈線文が施されている。825の口唇部はナデで仕上げられている。826は胴部下側の資料で入念に磨かれた器面にヘラ状工具による深く明瞭な凹線文が残される。なお、凹線文が施された後に磨きの器面調整を施したとみられる。827の頂部上面は竹管状工具を押しし、傾斜をなす口唇部は鋭いヘラで密に刻みが施されている。施文帯に充填する沈線文は、幅広く深く明瞭である。全体の文様構成は判然としないが、広範囲にマシカルで個性的な文様が展開する。なお、器壁はやや厚めで堅牢な焼成をなす。828は深鉢形土器の口縁部と判断したものであるが、突起部が脱落している。829は口縁部等の形状は不明であるが、胴部下側に浅い凹線文が残されている。

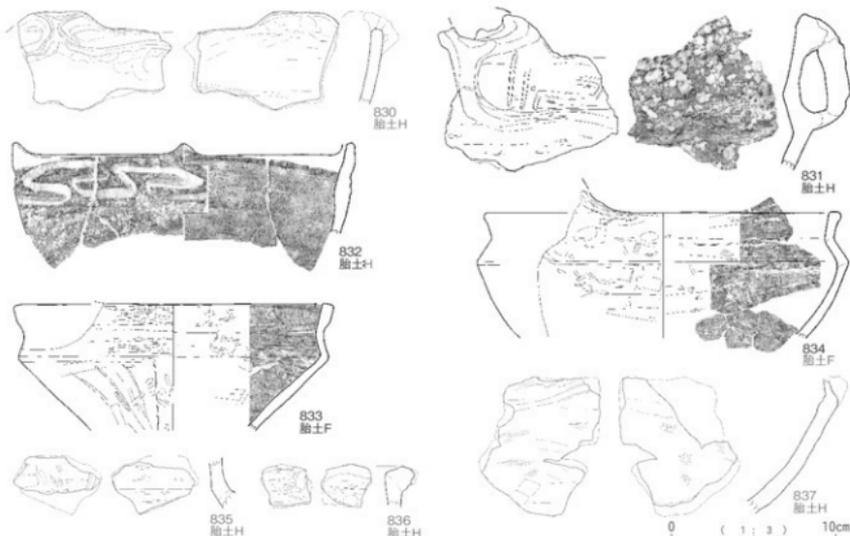
830は器形及び傾き等不明な部分が多いが、台形状突起前面にX状把手が確認できる。把手上面と口唇部の一部に沈線で刻みを施している。831は橋状把手を備えた鉢形土器で、欠損状況からX状把手の可能性が高いと判



第111図 10A類土器分布図



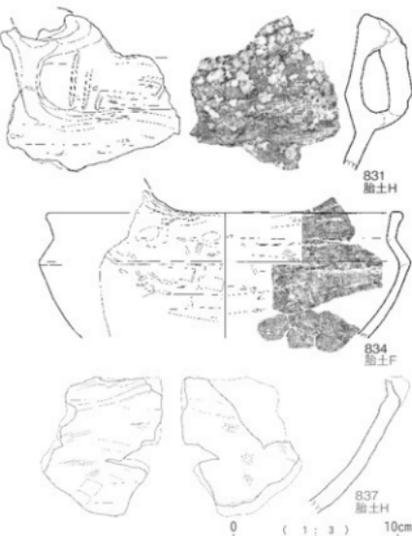
第112图 10A類土器実測図(1)



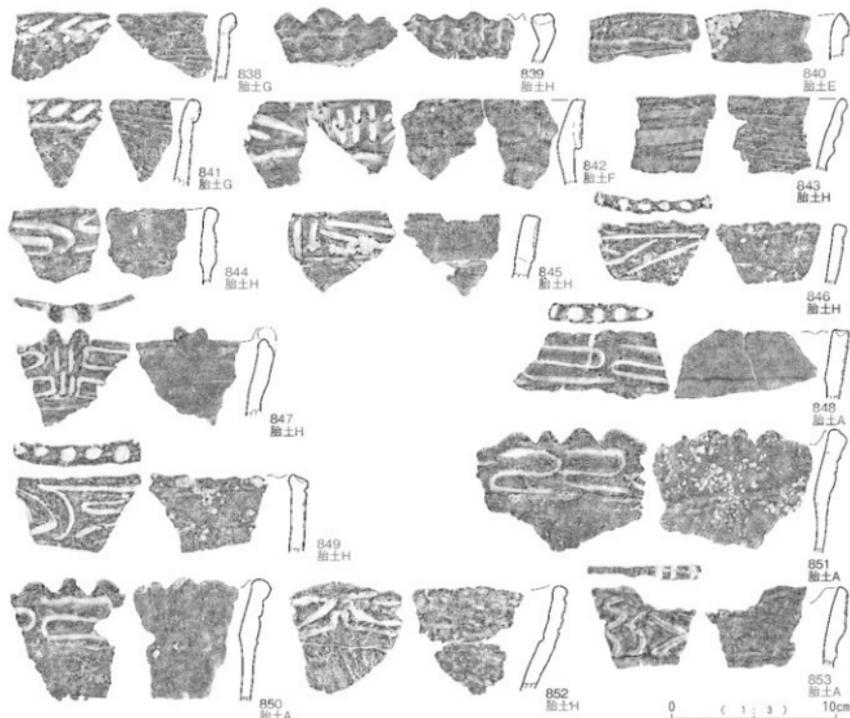
第113図 10A類土器実測図(2)

断される。残念ながら把手の頂部は欠損しているが、大きく張り出す肩部上位に把手を設置され、肩部から口縁部間にS字の変形文や短沈線文が施されている。なお、両面共に焼成前に赤色顔料が塗布されている。832は復元口径20.8cmで突起部を備え、突起間の口唇部は平坦面をなす。口縁部施文帯はやや肥厚し、ヘラによる浅い凹線文でS字の変形文を施している。施文帯以下はヘラ削りで、角閃石を多量に含む砂質の胎土が特徴的である。833は復元口径19.4cmの鉢形土器で、胴部は膨らむことなく肩部まで直線的に広がりながら立ち上がる。その後、一旦やや内傾するが緩やかに反りながらやや肥厚した口縁部を形成する。外面ではヘラナデの上に赤色顔料を塗り、その後磨きを施しているため器面は現在でも光沢を保っている。一方、内面整形はヘラや指頭で丁寧に撫でられ、屈曲部直下から口唇部に赤色顔料が塗布されている。なお、胴部外面の縦方向のヘラ削りも特徴的である。834は復元口径21.6cmの鉢形土器であるが、残存部位からは口縁部の突起の数およびその形状は判断できない。焼成前に外面と内面の上部に赤色顔料を塗布しており、その後丁寧に磨きが施されている。また内面もヘラや指で丁寧に撫でて仕上げられているが、部分的には輪積み痕も観察できる。胎土は長石が目立つが、角閃石も確認できる。ただし、角閃石については輝石との区別が難しい。836,837は831との同一個体の可能性が高い鉢形土器の頭部資料で、橋状把手の剥落痕が残る。

838は肥厚した狭い口縁部に棒状工具で斜めに刻みが施されたもので、841と同一個体の可能性が高い。839は



肥厚する鉢形土器の波状口縁部で、内面に指頭痕が残る。840は肥厚した口縁部に凹点文が施文されるもので、施文には指頭と工具が併用されている。841は肥厚した狭い口縁部に棒状工具で斜めに刻みが施されている。842も肥厚した口縁部を持ち、縦2段横5列の刺突文とその両側に斜行する沈線文が施される。器面は丁寧に撫でられ、特に口縁部施文帯には磨きが施されて器面は光沢を保ち、堅牢な仕上がりをなす。843については肥厚する口縁部施文帯を持つことからここで掲載した。844は胎土等が845と酷似し、同一個体の可能性が高い。845の肥厚する口縁部は丁寧に撫でられ、それ以下はヘラ削りで調整されている。846も同様にと丁寧に撫でられ、847は口縁部が肥厚する。848は施文帯下位はヘラ削りで調整され、施文帯にはS字の変形文を確認できる。口唇部は指で押さえられている。胎土には雲母が含まれ、内面は丁寧なナデにより仕上げられており重量感がある。849は若干施文が小振りであるが、調整手法や口縁部施文帯の特徴からここに分類した。なお、口唇部は指頭により連続的に押さえられている。850は口縁内面が外に開く鉢形土器で、肥厚する口縁部施文帯と内面は丁寧に撫でられているが、胴部にはヘラ削り痕が残されている。文様はS字の変形文でヘラで鋭く施文され、口唇部も大きく削り出されている。851は850に酷似する資料で、同一個体とみられる。852は小型鉢形土器で、口縁部に限って施文される文様はヘラ状工具によるS字の変形文とみられる。この資料は、輪積み部で上下に破断している。853は台形状突起部をもつ資料で、突起部を除いた口唇



第114図 10A類土器実測図 (3)

第43表 10A類土器観察表 (1)

採出地	品名	取上No	X径	Y径	口径	高さ	フリップ	胎土	備考
112	B17	3585	25.415	81.871	144.091	Ⅱ	C9		
		5280	25.992	83.591	144.001	Ⅱ	C9		
		5334	25.185	82.010	144.043	Ⅱ	C9		
		5454	19.777	85.962	143.195	Ⅳ	B9		
		6689	25.981	83.630	143.988	Ⅱ	C9		
		6703	25.813	82.737	143.992	Ⅱ	C9		
		6704	25.901	82.727	143.969	Ⅱ	C9		
		8667	26.982	82.733	143.994	Ⅱ	C9		
		8683	25.954	82.753	143.924	Ⅱ	C9		
		8684	25.889	82.778	143.930	Ⅱ	C9		
		8696	25.983	82.796	143.927	Ⅱ	C9		
		8699	26.093	83.070	143.918	Ⅱ	C9		
		8701	25.089	82.520	143.917	Ⅱ	C9		
		8704	24.830	82.498	143.916	Ⅱ	C9		
		8707	24.934	82.393	143.896	Ⅱ	C9	H	
		8708	25.139	82.386	143.911	Ⅱ	C9		
		8750	26.408	81.927	143.984	Ⅱ	C9		
		9807	21.180	33.180	144.710	Ⅱ	C4		
		10793	25.892	83.398	143.919	Ⅱ	C9		
		10794	25.859	83.210	143.886	Ⅱ	C9		
10796	26.141	83.403	143.916	Ⅱ	C9				
10797	26.092	83.553	143.984	Ⅱ	C9				
10811	26.238	83.090	143.955	Ⅱ	C9				
10812	26.329	83.023	143.895	Ⅱ	C9				
10813	26.399	82.963	143.892	Ⅱ	C9				
10815	26.270	82.827	143.885	Ⅱ	C9				
10817	25.964	82.778	143.909	Ⅱ	C9				
10818	25.807	82.823	143.920	Ⅱ	C9				
10820	26.474	82.807	143.903	Ⅱ	C9				

第44表 10A類土器観察表 (2)

採出地	品名	取上No	X径	Y径	口径	高さ	フリップ	胎土	備考
B17		11561	25.750	83.596	143.893	Ⅱ	C9		
		11594	26.210	83.020	143.892	Ⅱ	C9		
		11595	26.427	82.904	143.864	Ⅱ	C9		
		11771	24.542	80.618	143.965	Ⅱ	C9		
		13674	25.090	82.365	143.877	Ⅱ	C9		
		13675	25.088	82.488	143.852	Ⅱ	C9	H	
		14136	26.211	82.903	143.773	Ⅱ	C9		
		194167	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C9		
		—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C9		
		—	0.000	0.000	0.000	Ⅳ	C9		
		—	0.000	0.000	0.000	I	C9		
		14011	22.868	78.810	143.758	Ⅱ	C8		
		—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C8	H	
		—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C9		
		—	0.000	0.000	0.000	Ⅳ	C9	H	
112		820	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C9	H
		821	6089	21.916	78.264	143.942	Ⅱ	C8	H
		822	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C9	H
		823	—	0.000	0.000	0.000	I	C2	G
		824	15007	20.016	90.543	143.257	Ⅱ	C10	F
		825	10911	23.411	80.272	143.949	Ⅱ	C9	H
		—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C9	H	
		826	11653	22.688	82.514	143.721	Ⅱ	C9	F
		—	14108	22.688	82.565	143.634	Ⅱ	C9	
		827	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C3	H
		828	13497	16.865	92.238	143.138	Ⅱ	B9	G
		—	13499	17.139	82.140	143.106	Ⅱ	B9	G
		—	19548	24.016	92.639	143.777	Ⅱ	C10	
		829	—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	C10	E
		—	0.000	0.000	0.000	Ⅱ	B,C9		

10C類 出水式土器

861,862はラッパ状に開く口縁部に4か所の台形状突起が付けられ、頂部上面は指頭で凹点文状に刻みが施されている資料である。肥厚した口縁部には縦方向に連続して刻みが施されているが、施文具は二枚貝が使用された可能性が高い。傾きや器形等は明確でないが、鉢形土器と思われる。863の施文帯は若干肥厚している。864の口縁部施文帯下部は横方向にヘラで削られており、指頭で斜め方向に浅く押さえられた後、ヘラで沈線文を重ねて施文されている。865の沈線文は浅く不明瞭であるが、口唇部の施文は口縁部の施文と連動している。866の器面は丁寧に撫でられ、口唇部突起上面は指頭で刻みが施され、口唇端部が内側にはみ出す。867の傾きは若干疑問が残るが口唇部には突起部を持つ可能性が高い。口縁部には縦方向に4cm程度の沈線文が施されるが、施文帯が肥厚することはない。868はきめの細かい胎土を使用する。869は突起部の上面にねじり紐を貼付け、肥厚する施文帯に幅広い短沈線文を施す。

第46表 10B類土器観察表

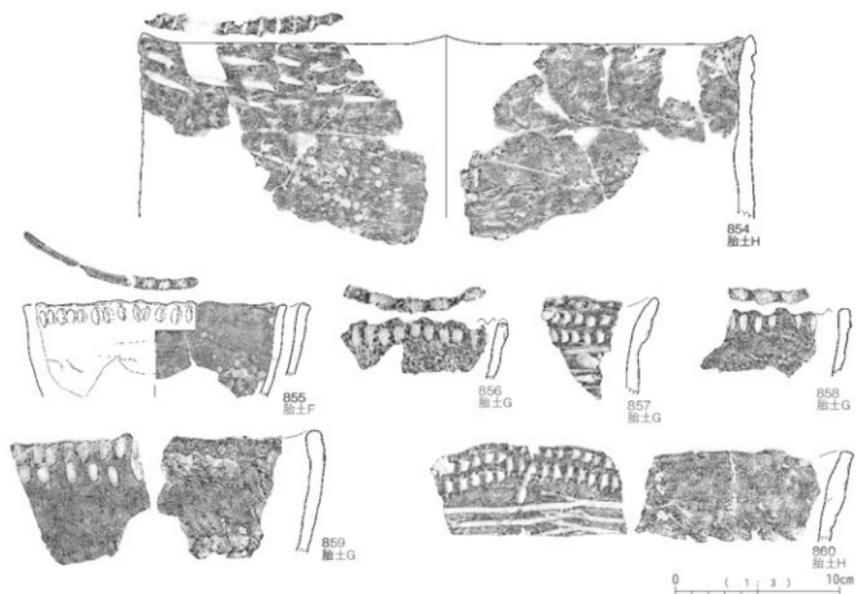
検出No	器No	取上No	X座標	Y座標	2巻標	層位	グリッド	胎土	備考
117	854	10183	24219	21137	144.000	Ⅱ	C-3	H	
		13152	23709	21410	144.743	Ⅱ	C-3		
		13891	23953	21097	144.633	Ⅳ	C-3		
		14626	23504	20578	144.613	Ⅲ	C-3		
		一括	0.000	0.000	0.000	Ⅳ	C-3		
	855	3536	27263	85.840	144.003	Ⅱ	C-9	F	
		一括	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9		
	856	40303	8.646	42.524	144.043	Ⅲ	A-5	G	
		40304	8.658	42.583	144.047	Ⅲ	A-5		
	857	15535	24.520	90.712	143.615	Ⅲ	C-10	G	
858	48210	11.917	44.300	144.326	Ⅲ	B-5	G		
859	10105	22.966	20.728	144.056	Ⅲ	C-3	G		
860	865	19.713	88.798	143.427	Ⅲ	B-9	H		
	601	19.238	86.570	143.422	Ⅲ	B-9			

第47表 10C類土器観察表

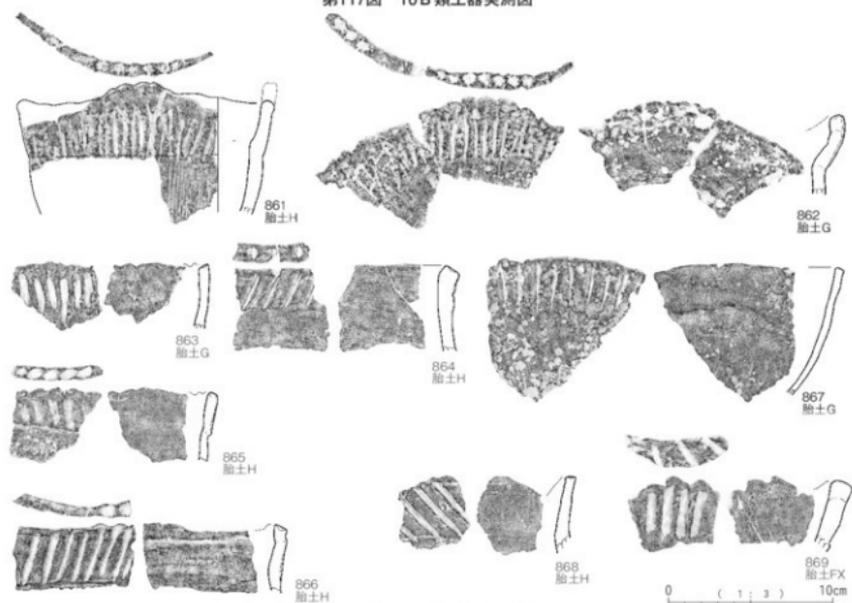
検出No	器No	取上No	X座標	Y座標	2巻標	層位	グリッド	胎土	備考
118	861	6065	23.090	79.643	144.035	Ⅱ	C-8	H	
		7481	23.155	78.340	144.028	Ⅲ	C-8		
		11119	23.756	79.321	143.943	Ⅲ	C-8		
	862	6305	17.813	79.557	143.392	Ⅲ	B-6	G	
		9150	17.489	79.112	143.341	Ⅲ	B-6		
	863	7120	24.473	74.699	144.390	Ⅲ	C-8	G	
	864	3694	18.846	84.531	143.467	Ⅲ	B-9	H	
		3773	18.078	81.897	143.328	Ⅲ	B-9		
	865	14222	23.641	78.688	143.831	Ⅲ	C-8	H	
	866	13492	18.081	80.053	143.268	Ⅲ	B-9	H	
867	14900	20.717	82.861	143.326	Ⅲ	C-9	G		
868	5817	24.889	78.983	144.178	Ⅲ	C-8	H		
869	12578	20.067	85.832	142.872	Ⅲ	C-9	FX		



第116図 10C類土器分布図



第117图 10B類土器実測図



第118图 10C類土器実測図

11類 指宿式土器

7類や10類土器が凹線文や幅広の沈線文を特徴とするのに対し、11類土器は沈線幅が狭く、且つ2本1組の並行沈線文を基本に文様を構成するものである。施文は口縁部に集中し、深鉢形土器では口径と胴部径がほぼ同一となる傾向がみられ、口唇部もやや尖り気味に丸く撫でられて仕上げられる傾向がみられる。また、波頂部をなす山形突起や台形状突起の内面には短沈線文が施されることも11類土器の特徴である。なお、文様構成により矩形文をA類、鉤形文をB類、人形文をC類、菱形文及び三角形文をD類、S字変形文をE類、並行線文をF類、二枚貝刺突文をG類とした。また、薄いピンク色の个性化的な器面を呈する胎土を使用した土器が特徴的に存在することから、それらの胎土については特に“指宿胎土”と表記した。

11A類 矩形文

870は復元口径30.2cmで、5か所に低い山形突起を備えるとみられる。頂部は貝殻工具で深く刺突し、施文帯と口唇部は丁寧に撫でられ、部分的に光沢を保つ。

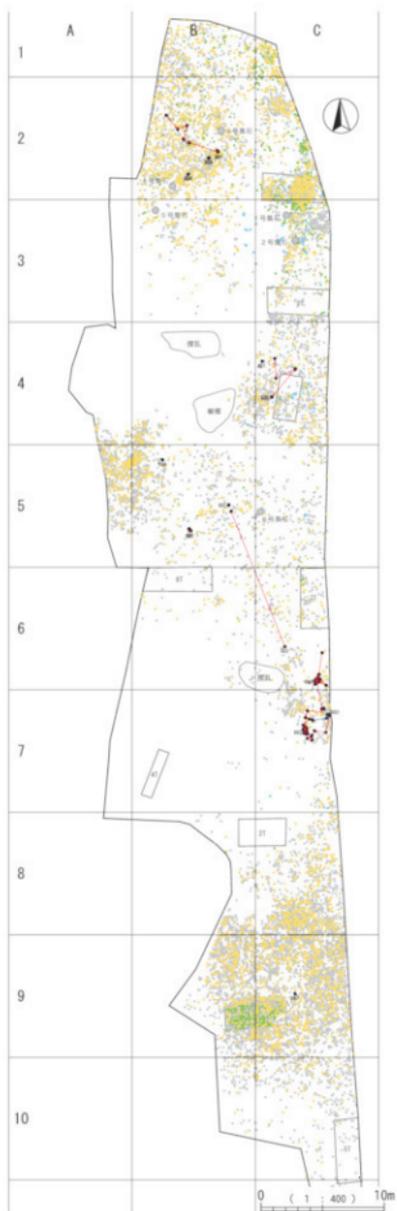
871は復元口径21.8cmで厚手の口唇部は丸く撫でて仕上げられ、頸部で大きく外反する。屈曲部を周回する沈線文の下位には矩形文、内面には部分的に屈曲する沈線文が配される。硬質な焼成で、胎土に長石粒を主とする砂粒を多く含むため器面はザラザラした質感を呈する。872は復元口径21.6cmで、口縁部が若干内側にすぼまり、最大径が胴部上位に位置する。文様は3本1組の並行沈線文にみえるが、一筆書き手法により矩形文を構成する。口唇部は尖り気味で、施文帯のみナデ仕上げで内面には工具ナデがそのまま残る。なお、器面には多量のススが付着している。また、胎土には多量の小豆色の粒子が特徴的に含まれている。873は矩形のコーナーが鈍角になる。874の口唇部は平坦で外に傾く。875は沈線が細く、文様構成の規格性は薄れる感はあるが、矩形文を踏襲する。内面調整は粗く、工具による削りが明瞭に残され、口唇部内側はヘラ削りの段差をそのまま残す。胎土には凝灰岩粒と長石粒の白斑が目立つ。876は薄いピンク色の器面を呈するいわゆる指宿胎土の土器で、丸く撫で仕上げた口縁部がわずかに外反する。877は復元口径29cmで、上面をヘラで刻んだ4か所の波頂部をもつ。施文帯は上部に限られ、並行する沈線文により8区画の矩形文を構成するとみられる。施文帯は丁寧なナデ仕上げであるが、内面は横方向の粗い糸組仕上げのまま残される。屈曲部の器壁が厚く成形され、胎土には大粒の凝灰岩粒が多く、石英粒や長石粒、小豆色の粒子が含まれる特徴を指摘できる。胎土は、いわゆる指宿胎土に該当する。878も875と大差なく、類似点が多い。879は矩形のコーナーが鈍角になる。880は871と同一個体の可能性が高い。



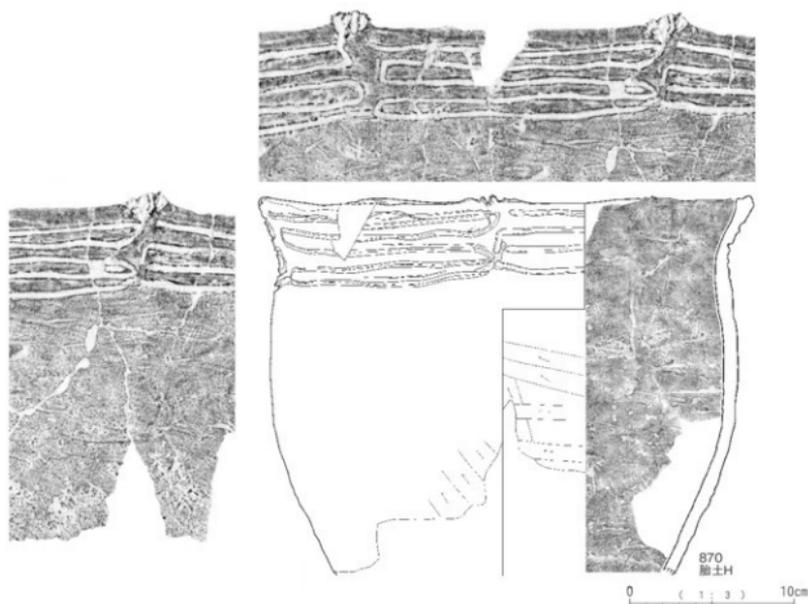
第119図 11類土器分布図



第120図 11A類土器分布図



第121図 11B類土器分布図



第122図 11A類土器実測図(1)【矩形文1】

11B類 鈎形文

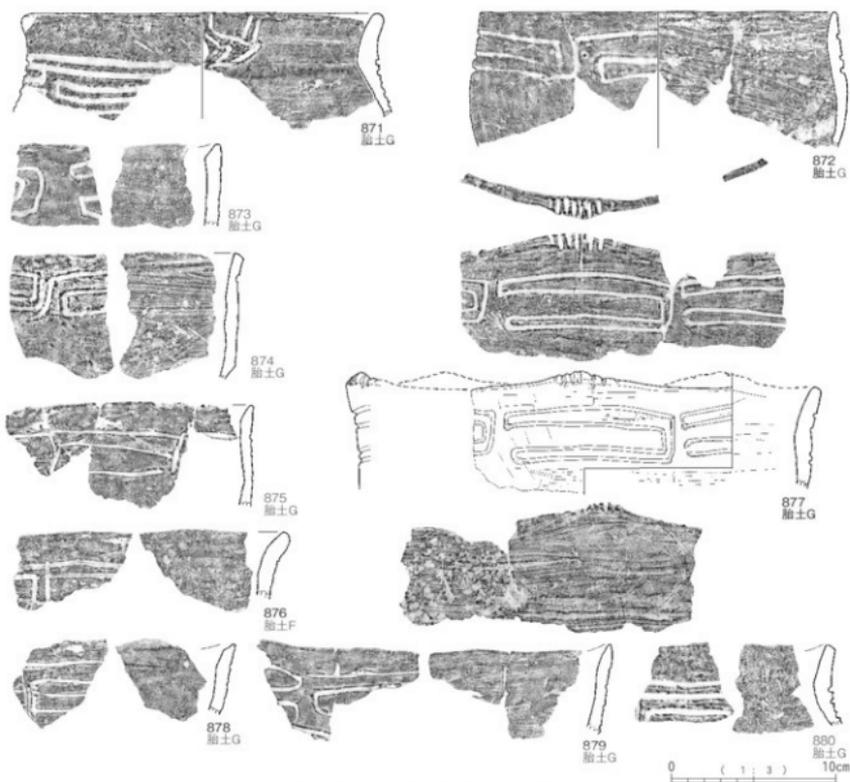
881は復元口径20.5cm程で、4か所に山形突起を備える。突起部は頂部を起点にして内側の左右に計3か所の刻みが施される。胎土は白色鉱物を含むいわゆる指宿胎土で、並走する沈線文が口縁部に沿って施文帯を周回する。

882は口径30.8cmの深鉢形土器で、4か所の山形波頂部や器形は881や884と共通する。突起部上面は棒状工具で深い刻みが7か所に施され、内側も同様に7か所を刺突する。鈎形文は並行する沈線で施文され、その両端は結ばれている。なお、文様構成は突起部間で異なり左右対称とはならず、一部では矩形文もみられる。また、沈線文が並行しないものもみられる。施文帯は撫でて仕上げられているが、他は工具ナアや条痕調整痕がそのまま残される。なお、内面は丁寧なヘラナア仕上げとなっている。883は復元口径26.4cmで、4か所の波頂部を持つ鉢形土器である。波頂部上面は工具で内側方向に8か所の刻みが施される。施文は波頂部を起点に行われているが、文様構成は左右対称とはならないようである。なお、下位の鈎形沈線文は両端が上下に屈曲する単独の鈎形文を連ねる施文手法を取り入れている。下部には横位3本の深い沈線文が施されているが詳細は明らかではない。施文帯はナア、内面はヘラナアで仕上げられている。

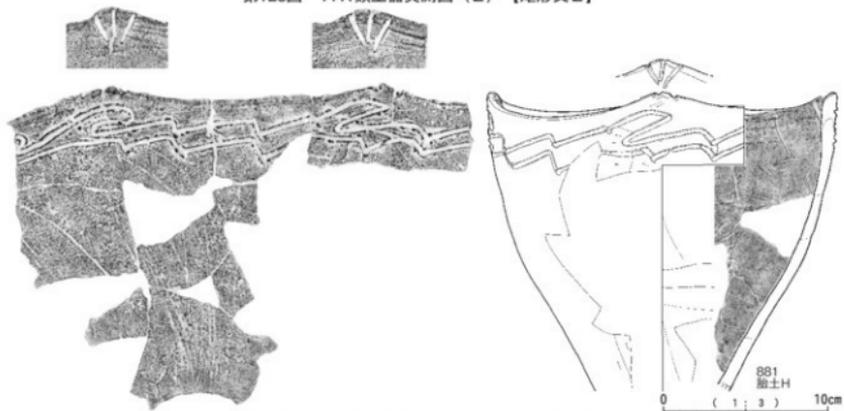
884は復元口径33.4cm、高さ37cmの深鉢形土器で、最

大径は胴部となる。口唇部は丸く撫でて仕上げられ、口縁部直下の屈曲部は並走する2本の鈎形沈線文が施文帯を周回し、その下位には同じく並走する2本の鈎形沈線文を施文する。また、さらにその下位も同様に一つおきに施文する。施文帯は工具ナア後、丁寧に撫でて仕上げられている。885は緩やかな波頂部が形成され波長部上面には縦方向に刻みが施されている。口唇部は丸く撫でて仕上げられ、鈎形文は深い沈線でも明確に施文される。内面は鮮やかな赤褐色であるが、外面は塗彩したかのように黒色に発色している。胎土には長石粒と小豆色の小粒子がみとめられる。

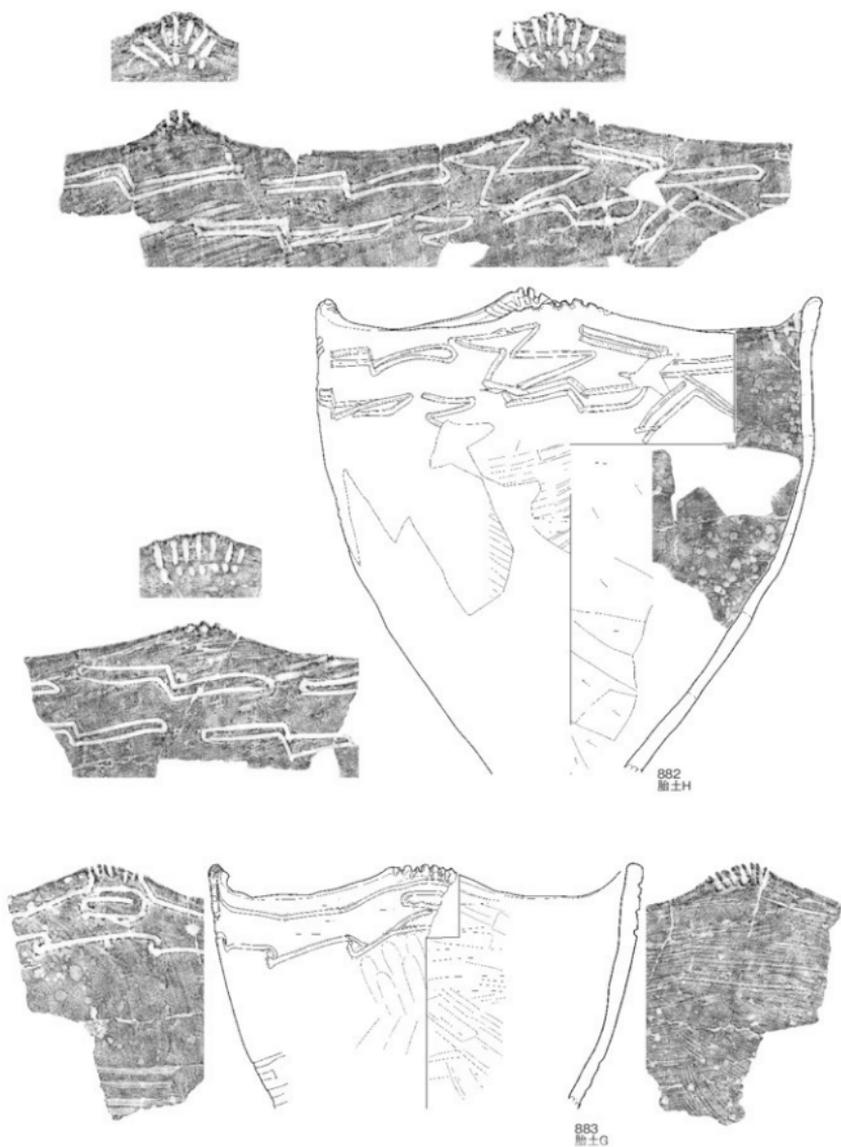
886は両面共に条痕仕上げで、そのまま鈎形の並行沈線文を施文する。887は内外面共に薄い肌色の器面を呈し、口唇部は丸く撫でて仕上げられている。内面は工具によるナア仕上げで、調整による凝灰岩粒の移動痕もそのまま残す。文様は並行する2本の沈線文で鈎形文を構成する。胎土には長石粒に加え小豆色の粒子を含む。888は薄手硬質土器で、ねじり紐で突起部を作出し、広範囲に鈎形文を組み合わせて施文する。沈線間のススは放射性炭素年代測定を行い、 $3,900 \pm 30$ yrBPの結果報告を得ている。889は口縁部が短く外反する形状で、屈曲部を周回する沈線文の下位には両端が上下に屈曲する単独の鈎形文を連ねている。器面は粗い条痕仕上げで、内面は工具で丁寧なナアが施されている。器壁は厚く重量



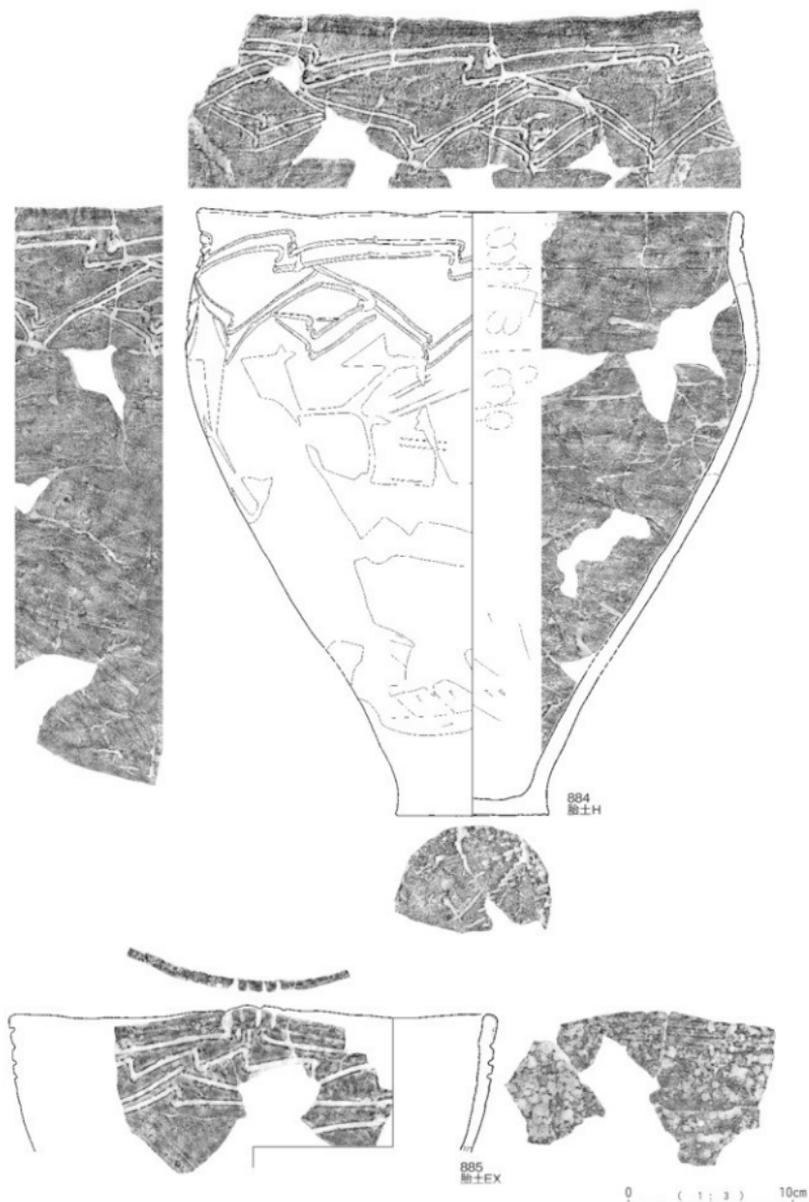
第123图 11A類土器実測図(2)【矩形文2】



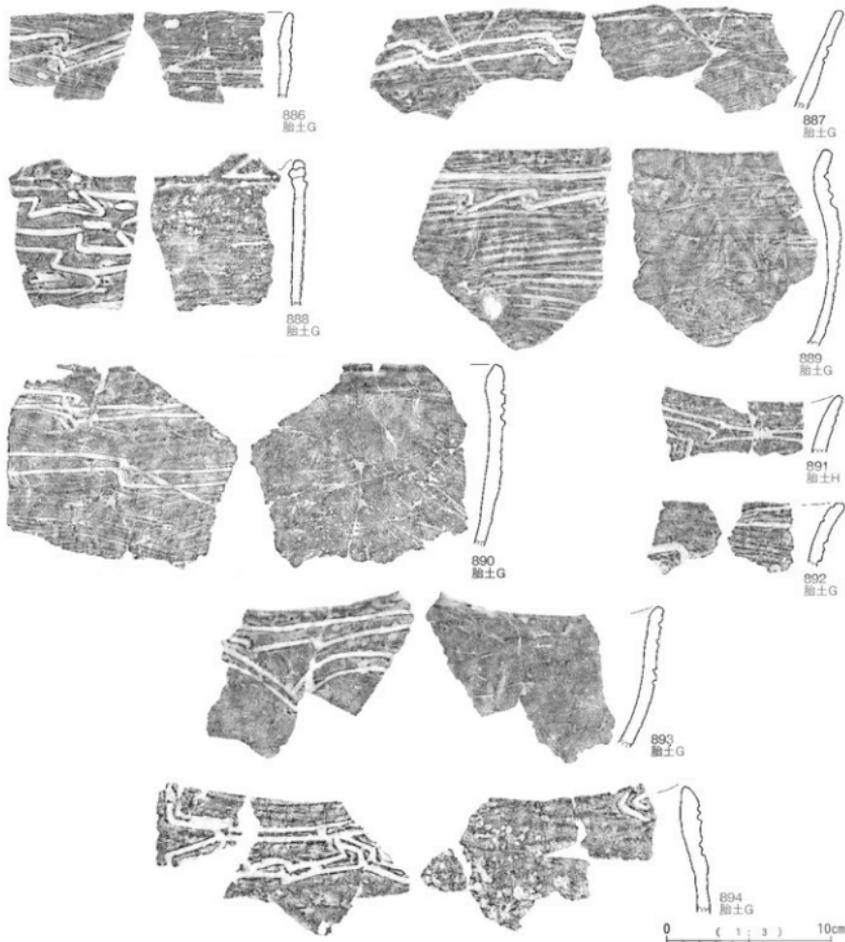
第124图 11B類土器実測図(1)【鉤形文1】



第125图 11B類土器実測図(2)【鉤形文2】



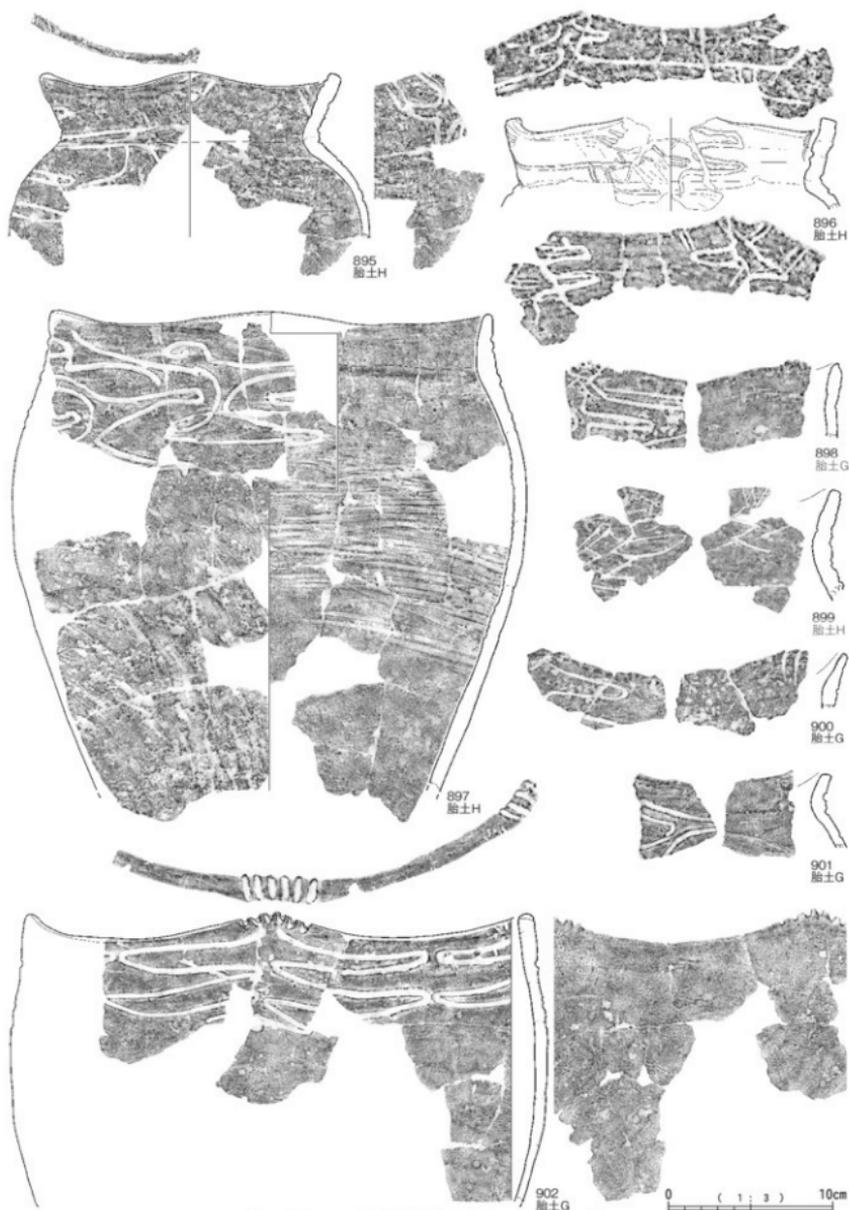
第126図 11B類土器実測図(3)【鉤形文3】



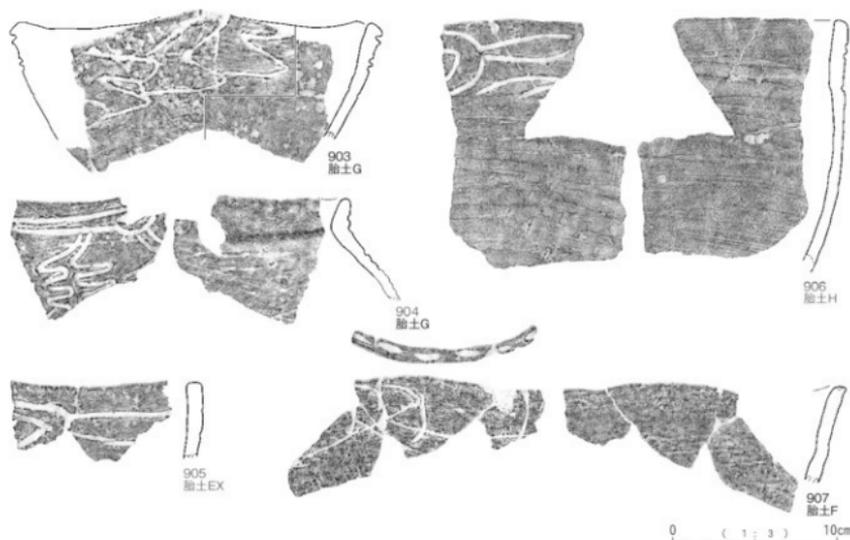
第127図 11B類土器実測図(4)【鉤形文4】

感のある仕上がりで、胎土は894に酷似する。890は上下2段共に鉤形並行沈線文が施文され、施文帯と内面上部が工具ナデの後にナデにより仕上げられている。内外面共に工具ナデ痕が明瞭に残ることから、乾燥が進行してから調整を行ったとみられる。胎土には大粒の凝灰岩粒等が含まれる。891の口唇部は尖り気味で、口縁部直下に並行する鉤形沈線文が施文される。892は内面にも沈線文が確認でき、器面は885と同様に外面のみが黒色を呈している。893は丸く撫でて仕上げられた口唇部が波状を呈し、波頂部間を単位とする施文が想定される。口

縁部に沿って施文帯を周回する最上位の沈線文の下部には鉤形文が描かれ、さらにその下部2本の並行沈線文は弧状に展開する。894は詳細な傾きは明らかでないが、袋状に内傾する形状を呈し口唇部は尖り気味に撫でて仕上げられ、波頂部は内面の菱形文と連動して縦に刻みが施されている。波頂部を起点に鉤形文の並行沈線文が施文帯を周回し、その下位も鉤形文を充填している。胎土は石英粒や長石粒に加え、大粒の凝灰岩粒と小豆色の粒子を多量に含むもので、それらの夾雑物が器面に露出している。



第130図 11C類土器実測図(1)【人形文1】



第131図 11C類土器実測図(2)【人形文2】

器で、いずれも波状口縁の可能性ある。902は復元口径31cmの鉢形土器で、口縁部は緩やかに内湾する。6か所の山形突起部を持ち、突起上面は棒状工具で深く6か所の刻みが施される。施文は波頂部を起点に口縁部に集中し、細沈線でトンボが羽を広げた意匠の人形文が描かれる。また、一部には刺突文もみられる。器壁は薄く、肌色の色調を呈し、胎土粒子は細かい。また、施文帯は丁寧に磨かれ光沢を保つ。

903は復元口径20.6cmの資料であるが、器形には疑問

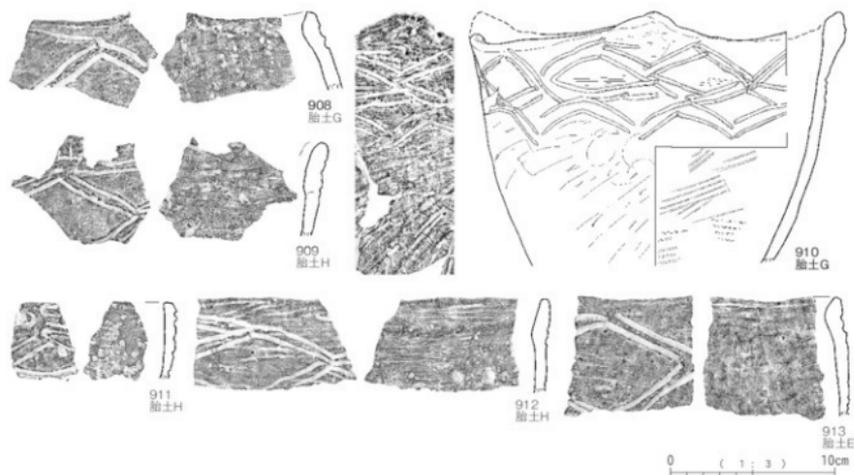
も残る。904は短い口縁部が急激に外反する鉢形土器である。905は平坦な口唇部で、左に逆C字状文を右に横方向の並走する沈線がみられる。904,905とも波状口縁の可能性ある。906は最大径が口縁部にくる深鉢形土器で、施文帯のナテ仕上げとそれ以下の工具ナテ調整の違いが明瞭に観察できる。907は口縁部直下の狭い範囲に施文したもので、平坦な口唇部に横方向の工具刺突が施される。

第50表 11類土器観察表(3)

検出No	器No	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	胎土	備考	
130	895	4770	14,258	45,958	144,619	Ⅱ	B-5			
		4771	14,179	45,959	144,580	Ⅱ	B-5			
		4790	16,361	44,995	144,673	Ⅱ	B-5		H	
		—E	0,000	0,000	0,000	I	B-5			
	896	3328	13,753	44,830	144,558	Ⅱ	B-5			
		3329	13,775	44,902	144,595	Ⅱ	B-5			
		4768	13,797	44,852	144,511	Ⅱ	B-5			
		53215	12,558	47,524	144,250	Ⅱ	B-5			
		13224	12,421	47,424	144,318	Ⅱ	B-5			
		—E	0,000	0,000	0,000	I	B-5			
	897	9944	15,228	10,899	143,906	Ⅱ	B-2			
		12893	14,982	11,014	143,961	Ⅱ	B-2			
12704		11,883	12,061	143,696	I	B-2				
14904		14,938	10,938	143,822	Ⅱ	B-2				
14906		15,028	10,902	143,809	Ⅱ	B-2				
14907		15,197	11,003	143,807	Ⅱ	B-2			H	
14908		15,125	10,782	143,826	Ⅱ	B-2				
15014		15,004	10,813	143,794	Ⅱ	B-2				
16216		15,133	10,848	143,786	Ⅱ	B-2				
17257		15,968	14,090	143,963	Ⅱ	B-2				
898	2765	19,706	36,204	144,769	Ⅱ	B-4	G			
899	861	21,861	38,489	144,736	Ⅱ	B-4	H			
	870	23,046	38,520	144,769	Ⅱ	C-4				
900	18258	11,846	11,996	143,868	Ⅱ	B-2		G		
	—E	0,000	0,000	0,000	I	B-2				
901	8076	22,860	96,716	144,834	Ⅱ	C-6	G			

第51表 11類土器観察表(4)

検出No	器No	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	胎土	備考	
130	902	15135	15,092	15,711	144,049	Ⅱ	B-2			
		16270	15,069	15,540	144,012	Ⅱ	B-2			
		16271	15,030	15,621	144,024	Ⅱ	B-2			
		17355	15,100	15,565	144,005	Ⅱ	B-2			
		17356	14,999	15,525	143,963	Ⅱ	B-2			
		17358	14,853	15,535	143,964	Ⅱ	B-2			
		17586	16,784	15,848	144,040	Ⅱ	B-2		G	
		17985	11,960	14,324	143,962	Ⅱ	B-2			
		18097	14,888	15,383	143,879	Ⅱ	B-2			
		18208	14,818	15,217	143,826	Ⅱ	B-2			
			—E	0,000	0,000	0,000	I	B-2		
			—E	0,000	0,000	0,000	I	B-2		
903	903	4907	18,132	47,742	144,872	Ⅱ	B-5			
		13256	16,723	45,520	144,614	Ⅱ	B-5			
		13257	16,620	45,480	144,560	Ⅱ	B-5		G	
		15428	16,731	45,581	144,567	Ⅱ	B-5			
		17011	16,631	45,581	144,533	Ⅱ	B-5			
			—E	0,000	0,000	0,000	I	B-5		
		16230	15,674	12,316	143,871	Ⅱ	B-2	G		
		12185	21,643	43,802	144,658	Ⅱ	C-5			
		16996	20,249	43,300	144,667	Ⅱ	C-5		EX	
		18847	19,268	88,180	143,035	Ⅱ	B-9			
906	14119	0,000	0,000	0,000	Ⅱ	C-9		H		
	—E	0,000	0,000	0,000	Ⅱ	C-9				
907	15814	24,411	89,024	142,551	Ⅱ	C-9				
	—E	0,000	0,000	0,000	Ⅱ	C-9		F		



第132図 11D類土器実測図(1)【菱形文・三角形文】

11D類 菱形文及び三角形文

908の口唇部内面は外向きに開く波状口線の資料である。909も鉢形土器の可能性が高く、口縁部直下を周囲

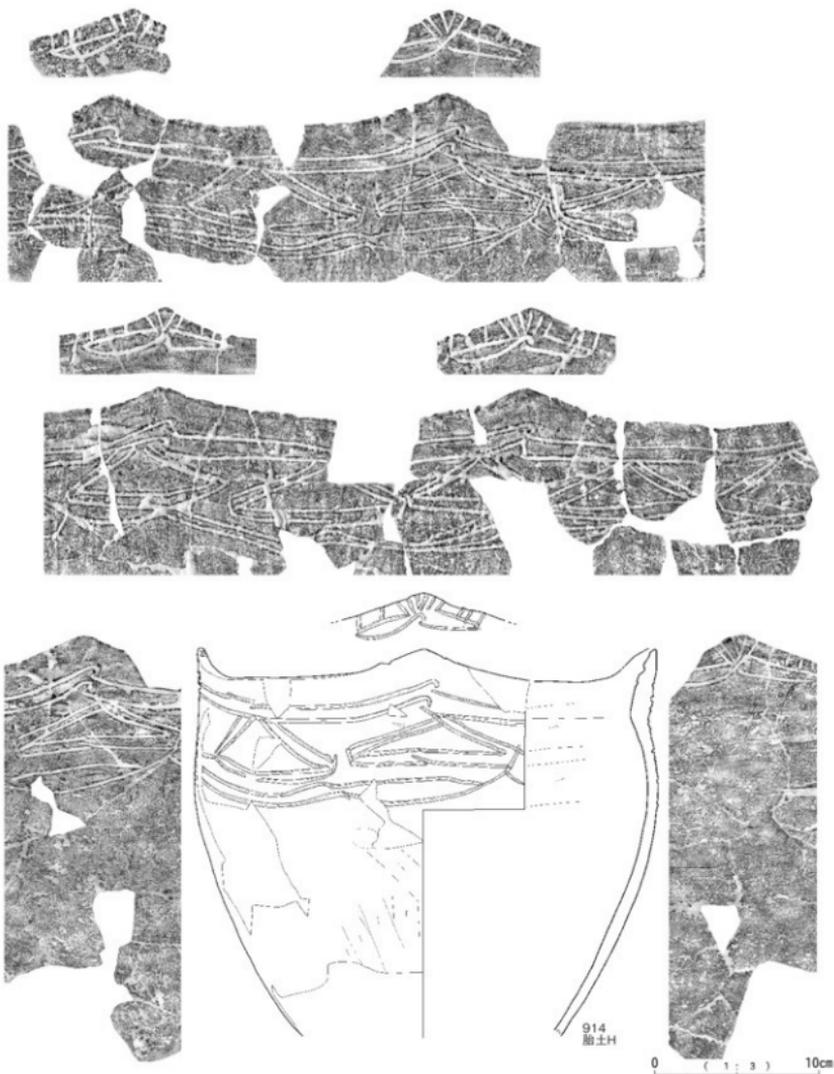
する並行沈線文の下位に菱形文が施文されている。910は復元口径229cmの深鉢形土器で、口唇部は丸く撫でられ、口縁部にはおそらく4か所の肥厚する山形突起部が作出される。口縁部の下位に並行する短沈線で菱形文を構成し、その下位に弧状文が展開する。施文帯は丁寧なナデにより仕上げられているが、胴部以下は工具ナデや縦方向のヘラ削り、条痕調整の痕跡がそのまま残される。

第52表 11類土器観察表(5)

検出No	器No	取上No	X径様	Y径様	Z径様	器位	グッド	胎土	備考
132	908	12471	25,990	59,655	144,555	Ⅱ C,6	G		
		—E	0,000	0,000	0,000	I A,5	H		
	910	4672	25,718	61,812	144,936	Ⅱ C,7			
		4674	25,868	61,795	144,961	Ⅱ C,7			
		4677	25,832	61,909	144,916	Ⅱ C,7			
		4678	25,805	61,851	144,945	Ⅱ C,7			
		4682	25,774	62,016	144,910	Ⅱ C,7			
		4683	25,815	61,946	144,884	Ⅱ C,7			
		4684	25,838	62,031	144,880	Ⅱ C,7			
		4686	25,920	61,914	144,923	Ⅱ C,7			
		4693	25,978	62,319	144,966	Ⅱ C,7			
		6260	25,522	61,928	144,871	Ⅱ C,7			
6261	25,661	61,953	144,882	Ⅱ C,7					
6264	25,897	62,038	144,791	Ⅱ C,7					
13399	25,573	61,879	144,813	Ⅱ C,7					
911	4329	20,429	47,316	144,830	Ⅱ C,5	H			
912	17325	16,693	16,596	144,206	Ⅱ B,2	H			
913	8196	23,684	60,888	144,758	Ⅱ C,7	E			
133	914	12803	16,701	16,475	144,313	Ⅱ B,2			
		12807	16,230	16,217	144,223	Ⅱ B,2			
		14915	15,647	11,958	143,947	Ⅱ B,2			
		15111	16,493	16,008	144,198	Ⅱ B,2			
		15113	16,510	16,364	144,219	Ⅱ B,2			
		15115	16,326	16,425	144,194	Ⅱ B,2			
		16211	16,262	16,325	144,177	Ⅱ B,2			
		16312	16,340	16,370	144,180	Ⅱ B,2			
		16320	16,377	16,641	144,177	Ⅱ B,2			
		16326	16,436	16,459	144,190	Ⅱ B,2			
		16327	16,482	16,382	144,206	Ⅱ B,2			
		16328	16,496	16,322	144,206	Ⅱ B,2			
		16332	16,537	16,138	144,194	Ⅱ B,2			
		17303	16,677	16,079	144,136	Ⅱ B,2			
		17318	16,314	16,354	144,136	Ⅱ B,2			
		17323	16,508	16,391	144,181	Ⅱ B,2			
		17574	16,504	13,016	143,990	Ⅱ B,2			
		17604	16,445	16,497	144,157	Ⅱ B,2			
		17606	16,369	16,407	144,142	Ⅱ B,2			
		17607	16,620	16,430	144,114	Ⅱ B,2			
18055	14,326	18,181	143,366	Ⅱ B,2					
—E	0,000	0,000	0,000	Ⅱ B,2					
—E	0,000	0,000	0,000	Ⅱ B,2					

第53表 11類土器観察表(6)

検出No	器No	取上No	X径様	Y径様	Z径様	器位	グッド	胎土	備考
915		12946	19,144	39,021	144,542	Ⅱ B,4			
		14375	19,173	38,916	144,466	V B,4			
		14376	19,101	39,020	144,471	V B,4			
		14377	19,000	38,981	144,502	V B,4			
916		16749	19,373	41,018	143,267	Ⅱ B,9	G		
		5006	19,859	45,946	144,800	Ⅱ B,5			
917		5007	19,751	45,963	144,789	Ⅱ B,5			
		5008	19,837	45,876	144,748	Ⅱ B,5			
		13263	19,163	47,635	144,762	Ⅱ B,5			
		616	20,469	46,506	143,448	Ⅱ C,9			
134		3431	20,355	46,289	143,610	Ⅱ C,9			
		3672	15,017	45,279	142,954	Ⅱ B,9			
		3828	23,114	54,736	143,785	Ⅱ C,9			
		9214	20,521	48,467	143,466	Ⅱ C,9			
		11662	17,796	47,369	142,905	V B,9			
		13425	19,704	49,026	143,350	Ⅱ C,9			
		15736	20,326	48,474	143,257	Ⅱ C,9			
		15737	20,473	48,619	143,296	Ⅱ C,9			
		15738	20,523	48,484	143,296	Ⅱ C,9			
		15740	20,662	48,619	143,232	Ⅱ C,9			
		15741	20,678	48,343	143,343	Ⅱ C,9			
		15742	20,970	48,390	143,349	Ⅱ C,9			
15743	21,025	48,296	143,344	Ⅱ C,9					
16691	20,013	48,136	143,226	Ⅱ C,9					
17772	19,620	48,061	143,189	Ⅱ B,9					
18254	19,471	48,155	143,152	Ⅱ B,9					
18471	20,619	48,533	143,193	Ⅱ C,9					
919		—E	0,000	0,000	0,000	Ⅱ B,9			
		—E	0,000	0,000	0,000	Ⅱ C,9			
		—E	0,000	0,000	0,000	Ⅱ C,9			
		—E	0,000	0,000	0,000	Ⅱ B,10			
		4641	23,506	62,504	144,833	Ⅱ C,7			
		15118	16,385	16,692	144,201	Ⅱ B,2	G		
		18654	11,464	13,695	143,564	Ⅱ B,2			



第133図 11D類土器実測図(2) 【菱形文・三角形文2】

内面も同様で、輪積み重も観察できる。胎土は大粒の凝灰岩粒のほか石英粒が目立つ。911も同様である。912も同様で、並行短沈線による菱形文が観察される。913は908と酷似し、これらは同一個体の可能性もある。

914は口径28.6cmの深鉢形土器で、4か所に山形突起

部を備え、最大径は胴部に設けられている。突起部間を並走する鈎形文の下位には三角形文が配されており、山形突起の内側にも短沈線による組み合わせ文が施されている。施文帯はナデにより仕上げられているが、胴部以下は縦方向の粗いヘラナデとなり、内面もナデにより仕